

9章. 親世代との支援・被支援関係

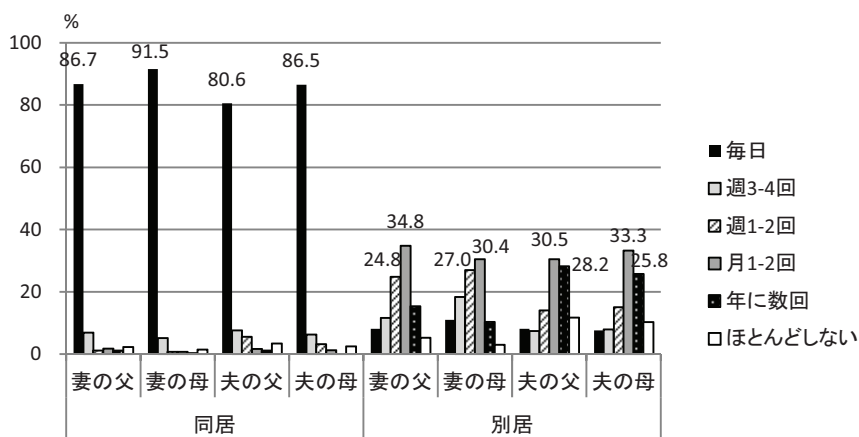
(千年よしみ)

平均寿命の伸長に伴い、世代間の関係が継続する期間も長期化している。本章では、妻が夫婦双方の父・母とどの程度交流し、どのような支援をどのくらい行っているのか、また、親からどのような支援をどの程度受けているのか、親世代との交流と支援・被支援関係について報告する。なお、分析は全て70歳未満の妻に限定した。

1. 親との会話頻度

第5回調査では、調査時点から1年前までさかのぼり、この1年間に親とどのくらい話をしたか、電話で話した回数も含めて聞いている。図9-1は妻と夫婦双方の父・母との会話頻度を同居・別居別に示したものである。これをみると、会話頻度は同居か別居かによって大きく違うことがわかる。同居していれば、妻にとって最も会話頻度の低い夫の父の場合であっても約8割が毎日会話をしている。最も会話頻度の高い妻の母の場合は、91.5%の妻が毎日会話をしている。週に3~4回程度の会話をするのは、妻方・夫方、父・母にかかわらず一桁台であり、会話をほとんどしないケースは親が誰であってもごくわずかである。

図9-1 親との同居別居別、親との会話頻度（第5回調査）



注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

別居している場合、会話頻度は大きく低下する。どの親についても会話頻度が最も高いのは月に1~2回であり、妻の父で34.8%、妻の母で30.4%、夫の父で30.5%、夫の母で33.3%とほぼ3分の1を占める。妻側の親については、月に1~2回に続いて週に1~2回が多く、妻の父で24.8%、妻の母で27.0%となっている。夫の親については、月に1~2回に続いて年に数回が多く、夫の父で28.2%、夫の母で25.8%となっており、妻の親との会話頻度の方がかなり高い。

週に少なくとも1度は親と話す妻の割合は、同居の場合、全ての親について9割を超え、

妻の父で 94.8%、妻の母で 97.4%、夫の父で 93.8%、夫の母で 96.0%である。別居の場合には妻の父で 44.6%、妻の母で 56.3%と妻方は 4割から 5割であり、夫方は、夫の父で 29.6%、夫の母で 30.6%と、父母にかかわらず 3割程度である。

親との会話頻度は、この 10 年の間にどのように変化したのだろうか。表 9-1 は、2003 年の第 3 回調査、2008 年の第 4 回調査、そして 2013 年の第 5 回調査について妻とそれぞれの親との会話頻度を集計したものである。第 3 回、第 4 回調査では「年に数回」と「年に 1~2 回」という選択肢が 2 つ含まれているが、第 5 回と比較するためこの 2 つの選択肢を合計して「年に数回」とした。

表 9-1 をみると、全般的に第 4 回調査の別居の親で「毎日」会話する妻の割合が第 3 回や第 5 回よりも若干高い傾向が見られるが、妻の親との会話頻度については大きな変化は見られない。唯一大きく変化しているのは、別居している夫の両親との会話頻度である。夫の父と「月に 1~2 回」程度の会話をする妻の割合は 37.3%、35.9%、30.5%と減少し、「年に数回」が第 4 回の 23.6%から第 5 回の 28.2%へ増加、そして「ほとんどしない」が 6.6%から 11.7%へ増加している。夫の母では、「週に 1~2 回」が 20.0%、18.1%、15.1%と減少し「年に数回」が 22.9%から 25.8%へ微増、「ほとんどしない」が 6.0%から 10.3%へ増加している。別居の場合、夫の両親との会話頻度は低下傾向にある。

表 9-1 親との同別居別、親との会話頻度の推移

(%)

同別居	親	調査回	ケース数	毎日	週に 3~4回	週に 1~2回	月に 1~2回	年に数回	ほとんど しない
同居	妻の父	第3回	189	86.8	5.3	4.2	0.0	0.5	3.2
		第4回	143	89.5	5.6	2.1	0.7	1.4	0.7
		第5回	173	86.7	6.9	1.2	1.7	1.2	2.3
	妻の母	第3回	326	94.5	4.3	0.3	0.0	0.3	0.6
		第4回	265	91.3	4.2	2.6	0.8	0.0	1.1
		第5回	271	91.5	5.2	0.7	0.7	0.4	1.5
	夫の父	第3回	514	76.3	10.1	6.8	2.0	0.6	4.3
		第4回	312	78.5	9.0	7.1	2.2	0.3	2.9
第5回		432	80.6	7.6	5.6	1.6	1.2	3.5	
夫の母	第3回	914	84.6	6.9	3.7	1.5	0.3	3.0	
	第4回	599	86.8	6.8	2.0	0.8	0.5	3.0	
	第5回	731	86.5	6.3	3.3	1.2	0.3	2.5	
別居	妻の父	第3回	2,814	5.6	11.3	27.2	36.3	16.1	3.7
		第4回	2,437	9.8	12.8	25.8	33.5	14.0	4.0
		第5回	2,234	8.2	11.6	24.8	34.8	15.4	5.2
	妻の母	第3回	4,007	9.6	17.1	30.6	30.1	10.7	2.0
		第4回	3,293	13.5	17.8	28.5	28.1	9.6	2.6
		第5回	3,169	11.0	18.3	27.0	30.4	10.3	3.0
	夫の父	第3回	2,011	4.6	5.2	18.2	37.3	27.6	7.2
		第4回	1,741	10.2	7.8	15.9	35.9	23.6	6.6
第5回		1,555	8.1	7.5	14.0	30.5	28.2	11.7	
夫の母	第3回	2,894	5.3	6.3	20.0	38.6	24.0	5.9	
	第4回	2,440	9.3	8.7	18.1	34.9	22.9	6.0	
	第5回	2,230	7.6	7.9	15.1	33.3	25.8	10.3	

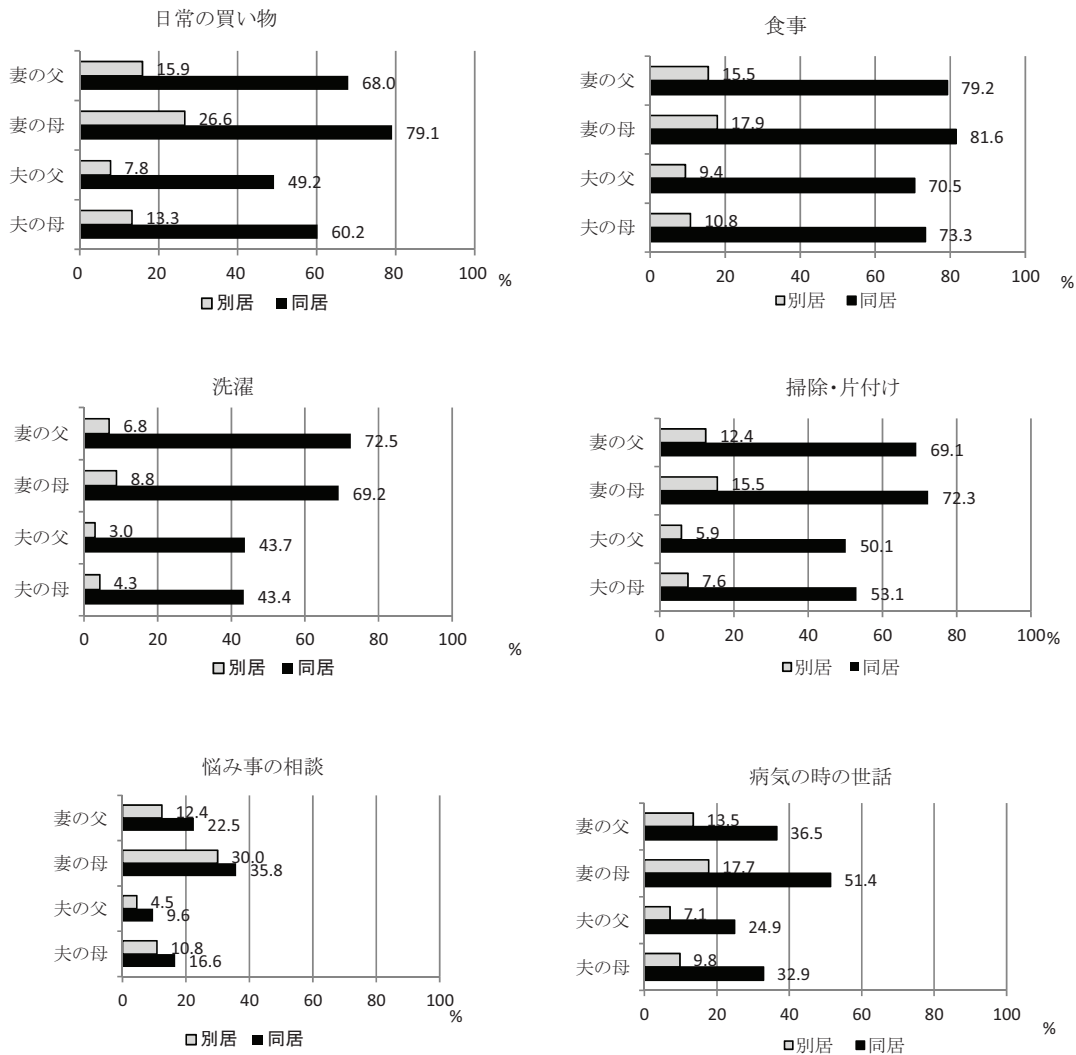
注) 妻の年齢が 70 歳未満について集計。第 3 回調査と第 4 回調査の「年に数回」と「年に 1~2 回」はまとめて「年に数回」とした。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

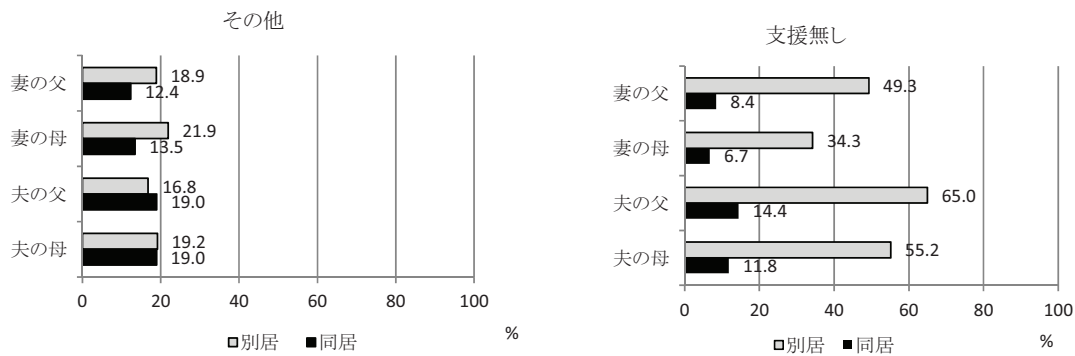
2. 親への支援状況

親への支援に関しては、この1年間に親に対して行った支援を「日常の買い物」、「食事」、「洗濯」、「掃除・片付け」、「悩み事の相談」、「病気の時の世話」、「その他」、「支援なし」の8つの項目に分けて聞いている。

図9-2は、妻から夫婦双方の父・母に対する支援を親との同別居別、支援項目別に示したものである。全般的に、別居よりも同居で支援割合が高く、夫方よりも妻方、父よりも母に対する支援割合が高い。まず「日常の買い物」、「食事」、「洗濯」、「掃除・片付け」といった日常的な家事に関する支援について同居・別居を比べると、支援を行う妻の割合は圧倒的に同居の方で高い。例えば「洗濯」についてみると、妻の父と別居している場合の支援割合は6.8%であるが、同居の場合は72.5%と大きな開きがある。

図9-2 親との同別居別、子から親への支援割合





注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

また、支援を行う妻の割合は妻の親の方が夫の親よりも全般的に高いが、両者間の差は支援する家事によっても異なる。例えば、食事に関する支援は同居の場合、妻の親で約8割となっているが、夫の親に対しても約7割が支援を行っている。しかし、洗濯では同居の妻の親で約7割、夫の親で約4割強であり、食事支援よりも妻方・夫方間の差が大きい。

一方、「悩み事の相談」といった心理的サポート、「病気の時の世話」といった突発的なサポートについては、他の項目と比べて同別居の違いは大きくはない。例えば「悩み事の相談」についてみると、妻の母と同居している場合の支援割合は35.8%であるのに対し、別居の場合には30.0%となっており、その差は6ポイント程度である。また、「病気の時の世話」については、妻の母と同居の場合には51.4%、別居では17.7%であり、「悩み事の相談」よりも同別居の差は大きい。「洗濯」などの日常的な家事と比べれば小さい。そもそもこの2つのタイプの支援は日常的な家事と比べ、同居であっても支援を行う妻の割合は低い。

「その他」の支援については、妻の親についてのみ別居の方が同居よりも支援割合が高くなっている。例えば妻の母をみると、同居で13.5%が「その他」の支援を行っているが、別居では21.9%となっている。また、夫の親についても、他の支援項目のような大きな同別居による違いは見られない。

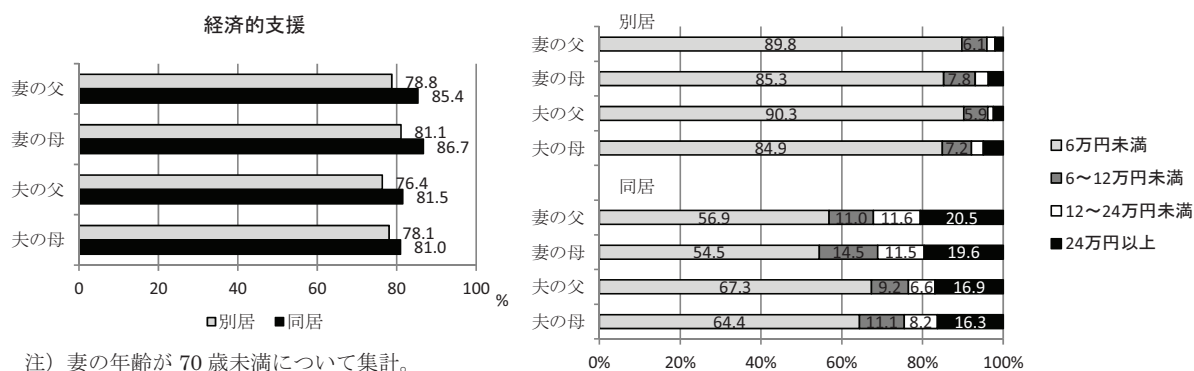
世話的な支援をこの1年間行わなかった妻の割合をみると、支援を行うケースの裏返しで、別居で高く、夫方の親で高く、そして父で高い。同居の場合、支援を行わなかった妻の割合は、妻方の親で一桁台、夫方では11~14%である。別居では支援を行わなかった妻の割合は、高い順に、夫の父65.0%、夫の母55.2%、妻の父49.3%、妻の母34.3%であった。支援を行わなかった妻の割合は母よりも父に対して高い傾向がみられるが、父母間の差は、特に別居の場合に大きい。

次に経済的支援の有無と支援を行った妻に限定し、支援金額の内訳を示したのが図9-3である。経済的支援は、調査時点までの1年間に生活費やプレゼントなど親のためにお金を使ったか否かで測っており、1円でも使っていれば金銭的な支援をしたことになるので、どの親に対しても高い支援割合となっている。具体的には、妻の母に対する経済的支援は

同居で 86.7%、別居で 81.1%と居住形態にかかわらず 8 割を超えている。妻の父、夫の父、夫の母についても同居で 81%から 85%、別居で 76%から 79%に達しており、日常的な家事支援で見られるような同別居、妻方夫方、そして父母間の大きな差はみられない。

支援金額については、圧倒的に 6 万円未満が多く、別居で 85%~90%程度、同居で 55%~67%を占めている。別居の場合、父に対しては、妻側夫側にかかわらず約 9 割が 6 万円未満の支援である。しかし、母に対しては約 85%が 6 万円未満、7~8%が 6~12 万円未満であり、母への支援金額の方が父よりも高めである。しかし別居の場合、妻方夫方間の差はみられず、ほぼ両者に同程度の金銭的支援を行っていることがわかる。

図 9-3 親との同別居別、親への経済的支援と支援金額



注) 妻の年齢が 70 歳未満について集計。

注) 妻の年齢が 70 歳未満で、親へ経済的支援を行った妻について集計。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

同居の場合は別居に比べて支援金額が高い。24 万円以上の支援を行っている妻の割合が 6 万円未満に次いで高く、妻の親に対しては約 2 割、夫の親に対しては約 16%となっている。経済的支援の有無だけを見た場合には同別居の差はあまりみられなかったが、支援金額をみると同居の場合の方が別居よりも支援金額が高いことがわかる。また、別居の場合には妻方夫方間の差は見られなかったが、同居の場合には、明らかに妻の親と同居している方が夫の親と同居している場合よりも支援金額が高い。

それでは、妻の親に対する支援はどのように変化してきたのだろうか。第 1 回調査から第 5 回調査までの主な家事支援の結果をまとめたものが表 9-2 である¹。まず、「日常の買い物」についてみると、同居する妻の親の場合には、父と母で支援の変化の仕方が異なる。妻の父に対しては、第 1 回の 56.3%が第 3 回で 65.5%に上昇し、更に第 4 回で 70.2%まで増加した。しかし、第 5 回では 68.2%にとどまっており、ほぼ 70%前後で落ち着いている。一方、同居する妻の母に対しては、第 1 回で 64.6%、第 3 回で 72.7%に上昇、第 4 回では 73.8%と横ばいであったが第 5 回ではさらに 79.1%まで増加している。しかし同じ同居でも夫の両親と同居している場合には、夫の父で 48%から 50%、夫の母で 54%から 60%で

¹ 「食事」と「洗濯」は、第 3 回から第 5 回ではそれぞれ別々の設問で聞いているが、第 1 回は「食事・洗濯」とまとめてきているため、第 3 回から第 5 回も「食事・洗濯」と両方を合わせて集計した。

あり、妻の親ほどに大きな変化は見られない。別居の場合は全般的に第1回で高めの数字が出ているが、第3回から第5回までの変化はどの親についても緩やかな増加傾向が見られる。そして、その増加の程度は妻側の親の方で高い。例えば、別居する妻の母に対する支援は、第3回で19.7%であったのが第4回・第5回で26~27%になっている。一方、別居する夫の母に対する支援は、第3回で11.6%であったのが第4回・第5回では13%程度である。

「食事・洗濯」支援については、同居する妻の親で増加の程度が著しい。同居の妻の父についてみると、第1回から第4回までは7割程度であるが、第5回では83.7%に上昇している。同居する妻の母も、第1回は7割ほどであったのが第3回・第4回で約76%に上昇し、今回は85.8%に急上昇した。妻の親と別居の場合には、父・母共に第3回から少しずつ上昇する傾向がみられる。

一方、夫の親については、同居する夫の父の場合に第3回から第5回で64%から72%へ、同居する夫の母の場合に70%から74%へと上昇してはいるものの、同居する妻の親ほど増加幅は大きくない。別居の場合には、支援割合はほぼ横ばいで推移している。同居の場合に「食事・洗濯」に関する支援を行う妻の割合が増えた理由としては、特に妻の親との同居の場合に、同居時の親の年齢が高齢化しているか、要支援になってから同居するなど、同居タイミングに変化が生じている可能性があげられる。

表 9-2 親との同別居別、子から親への支援状況の推移

親	調査回	(%)									
		ケース数		日常の買い物		食事・洗濯		悩み事の相談		病気の時の世話	
		同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
妻の父	第1回	151	2,516	56.3	19.5	71.5	26.1	12.6	11.0	42.4	20.2
	第2回										
	第3回	174	2,707	65.5	11.4	70.1	13.0	17.2	15.3	40.8	15.4
	第4回	141	2,436	70.2	15.8	70.9	16.7	14.9	11.1	41.8	12.6
	第5回	178	2,221	68.0	15.9	83.7	17.2	22.5	12.4	36.5	13.5
妻の母	第1回	263	3,553	64.6	27.0	70.3	25.4	32.7	31.1	51.7	27.6
	第2回										
	第3回	315	3,856	72.7	19.7	75.6	14.6	33.3	34.4	52.1	20.8
	第4回	271	3,397	73.8	25.6	75.7	17.8	28.8	28.1	47.6	18.0
	第5回	282	3,179	79.1	26.6	85.8	19.9	35.8	30.0	51.4	17.7
夫の父	第1回	457	1,810	47.9	11.2	71.1	15.3	5.3	6.6	30.2	12.2
	第2回										
	第3回	490	1,870	50.0	6.3	64.3	8.9	8.6	7.2	31.0	10.0
	第4回	328	1,754	49.4	7.9	65.9	10.8	7.9	5.7	28.1	7.0
	第5回	437	1,573	49.2	7.8	71.6	10.0	9.6	4.5	24.9	7.1
夫の母	第1回	783	2,653	53.9	15.2	67.7	15.6	17.0	14.9	46.6	18.6
	第2回										
	第3回	872	2,698	58.7	11.6	69.5	11.3	18.2	15.5	43.7	13.6
	第4回	625	2,509	60.3	12.5	71.8	11.3	16.8	12.9	37.9	8.9
	第5回	754	2,265	60.2	13.3	74.4	12.2	16.6	10.8	32.9	9.8

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。「食事」と「洗濯」は、第3回から第5回ではそれぞれ別々の設問で聞いているが、第1回は「食事・洗濯」とまとめてきいているため、第3回から第5回も「食事・洗濯」と両方を合わせて集計した。第2回調査では、家事の支援項目に関する設問無し。

「悩み事の相談」についても同居の場合に上昇傾向がみられる。同居している妻の父に対する「悩み事の相談」についてみると、1993年の第1回で12.6%、第3回で17.2%、第4回で14.9%と一度低下するものの第5回で22.5%となっており、緩やかな上昇傾向がみられる。同居する夫の父についても第1回では5.3%だったのが第5回で9.6%となり上昇傾向にある。しかし、母については、妻方で29~36%、夫方で17~18%であり目立った変化は見られない。また、別居の場合については、特に夫方の母に対しての支援割合が、第1回・第3回で15%程度だったものが10%程度へと減少傾向にある。

「病気の時の世話」は、同居の妻の母を除き概ね減少傾向にある。例えば夫の母と同居している場合、第1回調査では46.6%の妻が支援を行っていたが、回を追うごとに43.7%、37.9%と段階的に減少し第5回では32.9%に低下している。妻の母についても、別居の場合には27.6%、20.8%、18.0%、17.7%と20年前と比べて10ポイントの減少である。同居の場合には第1回から第5回にかけて大体50%ほどの女性が支援を提供しており変化は見られない。

3. 親からの支援状況

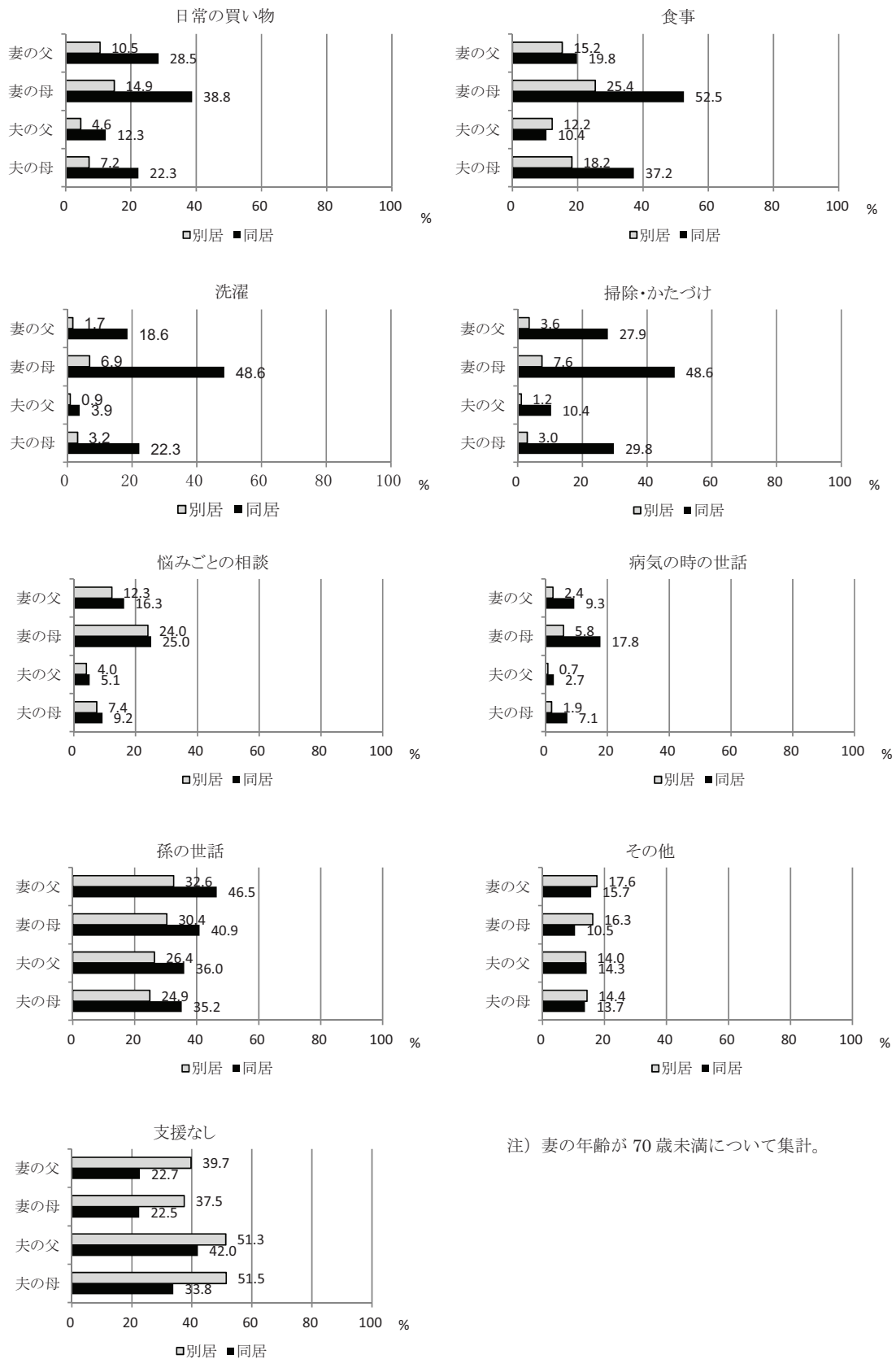
第5回で初めて導入した質問に、妻に対する親からの支援がある。この設問では「日常の買い物」、「食事」、「洗濯」、「掃除・片付け」、「悩み事の相談」、「病気時の世話」、「孫の世話」、「その他」、「支援無し」の9つの項目について調査時点から1年前までにさかのぼり、親から支援を受けたか否かを聞いている。更に親から受け取ったお金や物品の合計金額についても聞いている。

図9-4にそれぞれの項目について支援を受けた妻の割合を同別居別に示した。「日常の買い物」、「食事」、「洗濯」、「掃除・片付け」の日常的な家事支援についてみると、親への支援同様、別居よりも同居、夫方よりも妻方、父よりも母から支援を受ける割合が高い。特に同居している場合に母から支援を受ける女性の割合が高く、「食事」、「洗濯」、「掃除・片付け」に関してはほぼ5割の女性が支援を受けている。「食事」に関しては、別居であっても妻の母から支援を受ける女性の割合は25.4%と比較的高い。しかし、「洗濯」や「掃除・片付け」では、別居の場合に妻の母から支援を受ける女性は一桁台である。

「悩み事の相談」では、同別居の差があまり見られなくなるが、夫方よりも妻方、父よりも母から支援を受ける傾向はやはり顕著である。妻の母から「悩み事の相談」に関して支援を受ける妻の割合は、同別居にかかわらず25%ほどである。しかし、同居であっても夫の母の場合には、9.2%にすぎない。支援の提供でもそうであったが、「悩み事の相談」については、同居している妻の母であっても支援の程度は日常的な家事ほどには高くない。

「病気の時の世話」を受ける妻の割合は低い。最も支援を受ける割合が高い同居している妻の母の場合でも17.8%である。これは、過去1年の間に世話を必要とするほどの病気にならなかったケースも含まれるためであろう。

図 9-4 親との同別居別、親からの支援割合



注) 妻の年齢が 70 歳未満について集計。

「孫の世話」は、比較的夫方妻方の差が見られない支援項目である。興味深いのは、最も多くの支援を提供しているのが、妻の母ではなく妻の父であることである。妻が妻の親と同居している場合、46.5%の妻が妻の父から支援を受けており、妻の母から支援を受けているのは40.9%となっている。別居の場合、妻の父から支援を受けているのが32.6%、妻の母から受けているのが30.4%である。父母間の差は、特に同居で大きい。夫方の親についても、妻方ほどの差は見られないが、父からも母からも同程度に支援を受けていることが読み取れる。しかし、ここで示しているのはあくまでも支援の有無であり、支援の程度ではないことに留意する必要がある。

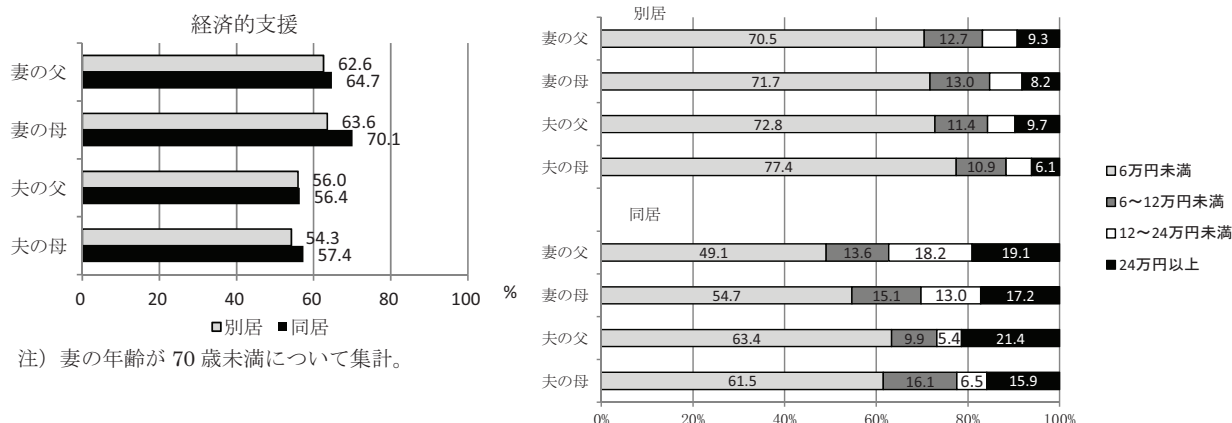
「その他」に関しては親への支援同様、妻の親の場合、同居よりも別居で高い。妻の母をみると、同居している場合に「その他」の支援を受けるのは10.5%であるが、別居では16.3%である。夫側の親については、同別居の間に顕著な差は見られない。

支援を親から受けていない妻の割合は、妻の親と同居の場合23%、別居で38-40%である。夫の親と同居の場合には34%から42%、別居の場合には51から52%が支援を受けておらず、やはり夫の親から支援を受けない女性の割合の方が高い。また、妻の親の場合には、同別居にかかわらず支援を受けない女性の割合は、父母共に同レベルにあるが、夫の親と同居している場合、支援を受けない女性の割合は母よりも父で高い。しかし、夫の親と別居している場合には、支援を受けない妻の割合は父母共に約5割で父母間の差は見られなかった。

親からの経済的支援の有無と、経済的支援を受けた女性に限り、その支援金額の内訳を同別居別に示したのが図9-5である。経済的支援は「この1年間に親御さんから受け取ったお金や物品のおおよその合計金額はどれくらいですか。生活費、仕送り、プレゼントのためのお金を含みます」という設問で「受けていない」以外に丸をつけた女性の割合である。図9-5によると、親から経済的支援を受けた女性の割合は、やはり妻の方で高い。また、妻方も夫方も父の場合には同別居による差はあまり見られないが、母の場合には同居の方で若干高い傾向がみられる。具体的には、妻の父から経済的支援を受けた妻は、同居で64.7%、別居で62.6%、夫の父から支援を受けた妻は同居で56.4%、別居で56.0%であり、妻の親からの方が支援を受けた割合は高いが、同別居による差は大きくない。しかし、母の場合には、妻の母から支援を受けた妻は同居で70.1%、別居で63.6%となっており、同居の方で高い。

支援金額の内訳を同別居別にみると、同別居共に6万円未満の支援を受けている女性の割合が最も高く別居で7割台、同居で5割から6割台である。別居の場合は6~12万円未満が11%から13%で続いているが、概ね金額の内訳に親間の差は見られない。同居の場合には24万以上の支援を受けた女性が別居よりも高く、妻の父が19.1%、妻の母が17.2%、夫の父が21.4%、夫の母が15.9%となっている。支援を受ける金額は、やはり同居の方で高めである。

図 9-5 親との同別居別、親からの経済的支援と支援金額



注) 妻の年齢が 70 歳未満について集計。

注) 妻の年齢が 70 歳未満で、親から経済的支援を受けた妻について集計。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

4. 親への支援と親からの支援

第 5 回調査では、初めて妻から親への支援の他に親から妻への支援についても聞いた。それでは、親への支援の流れと親からの支援の流れでは、どちらの方が大きいのだろうか。また両者間の流れの差は、同別居によってどのように異なるのだろうか。図 9-6 は、各支援項目を親との同別居別に親から子への支援、子から親への支援を示したものである。

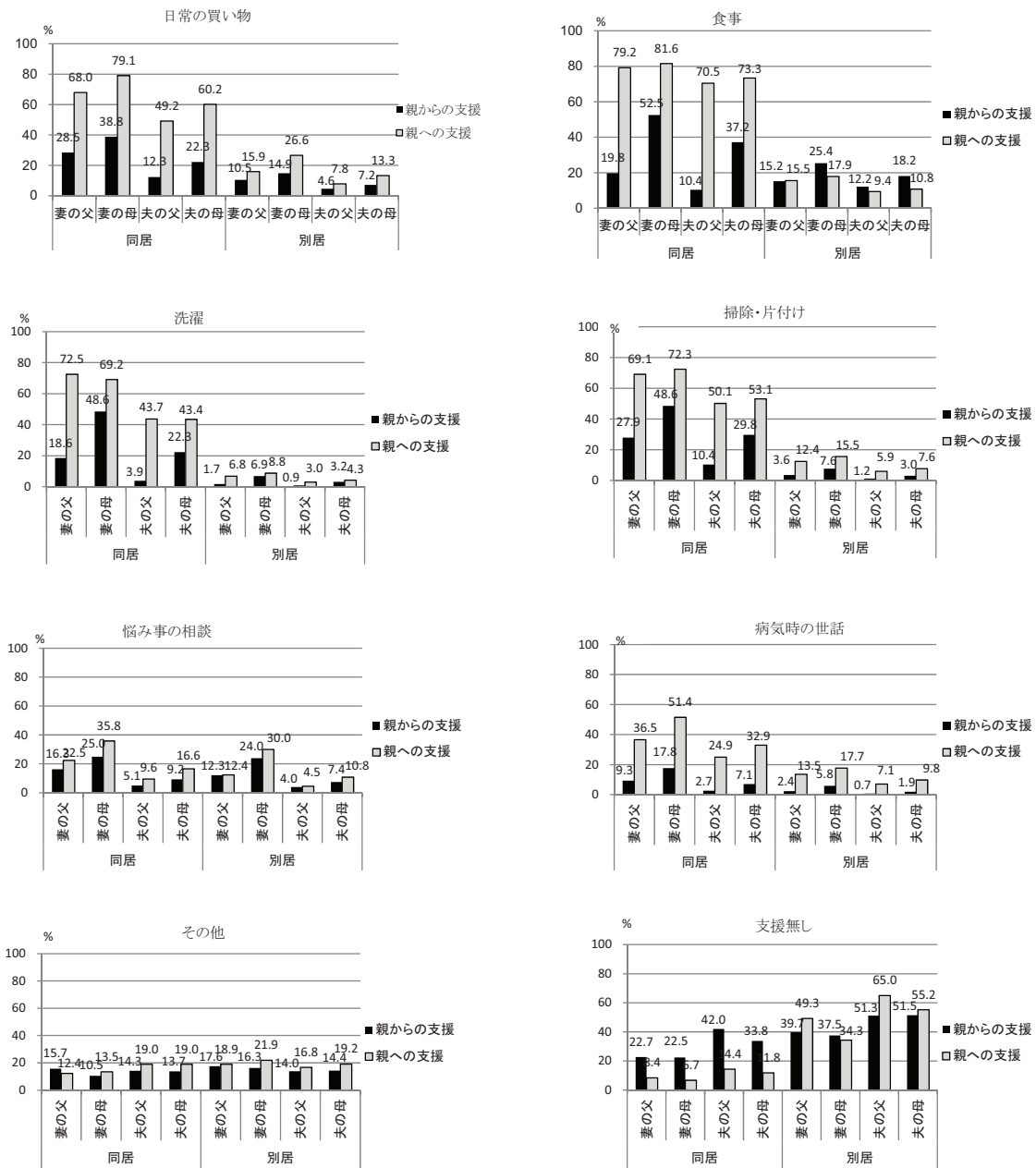
「日常の買い物」、「洗濯」、「食事」、「掃除・片付け」といった家事的支援についてみると、特に同居で、親へ支援を提供する妻の割合の方が親から支援を受ける妻の割合よりも高い。また、別居の場合は支援をする妻の割合と支援を受ける妻の割合にあまり大きな差は見られず、支援の有無は同居と比べるとかなり低レベルである。つまり、家事の相互支援が別居の場合にはあまり活発に行われていないことを示している。同居の場合は別居よりも支援の相互関係が活発であるが、妻が支援をする割合の方が親から支援を受ける割合よりもかなり高い。最も多くの支援を受けている同居の妻の母の場合であっても、支援を受ける割合は、支援を提供する割合よりも 20~40 ポイントほど低い。

唯一例外なのは、別居する妻・夫の母の「食事」に関する支援である。別居する妻の母の場合、母に対して食事支援を行う妻の割合は 17.9%であるのに対し、別居する母から食事支援を受ける妻の割合は 25.4%と支援を受ける妻の割合の方が高くなっている。これは、夫の母でも同様の傾向がみられる。別居の場合は、母に食事の支援をする妻の割合よりも、母から支援を受ける妻の割合の方が高い。

「悩み事の相談」についても支援を提供する妻の方が、支援を受ける妻よりも多い。例えば、同居の妻の母で前者が 35.8%、後者が 25.0%、別居で前者が 30.0%、後者が 24.0%である。しかし、全般的にそれほど大きな差はみられず、また同別居による違いも比較的小さい。

「病気時の世話」でも、親への支援の方が親からの支援よりも同別居にかかわらず高い。最も支援割合の高い妻の母は、同居の場合、親からの支援が 17.8%、親への支援が 51.4%

図 9-6 親との同別居別、親への支援と親からの支援



注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

となっている。「その他」に関しては、概ね親への支援が親からの支援よりも高いが、妻の父についてのみ親からの支援が15.7%、親への支援が12.4%で親から支援を受けている妻の割合の方が若干高い。また、同別居による差はわずかである。

親からの支援が全く無かった女性の割合は、妻の親との同居のケースが最も低く、父・母共に約23%である。夫の親と同居で親から支援を受けない割合は、夫の父で42%、夫の母で34%であり、特に夫の父から支援を受けない女性の割合は高い。その一方、同居で親

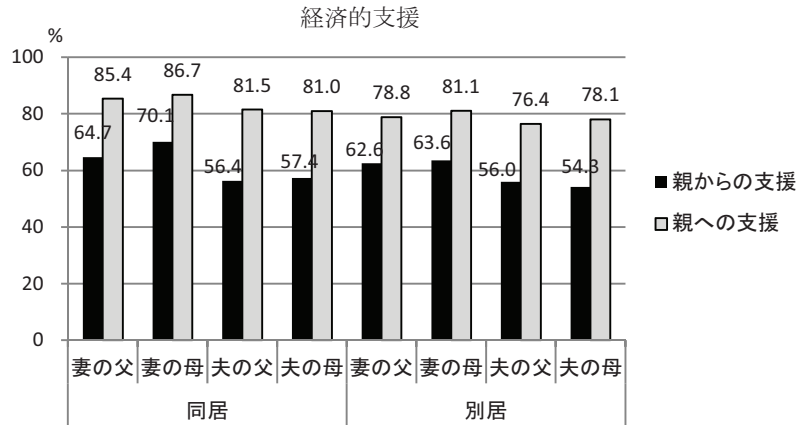
に全く支援を行っていない妻の割合は総じて低く、妻の親の場合は1桁台、夫の母で約12%、夫の父で14%であった。同居の場合には、圧倒的に妻から親への流れの方が、親から妻への流れよりも大きいことがわかる。一方、別居の場合には支援を受けていない・支援をしていない女性の割合が同居よりもそもそもかなり高い。そして、別居の場合、妻の父、夫の父、夫の母の3者については親への支援をしていない女性の割合の方が、親から支援を受けていない女性の割合よりも高い。つまり、親から妻への流れの方が妻から親への流れよりも大きい。しかし、妻の母に関しては、支援をしていない妻が34.3%、支援を受けていない妻が37.5%で支援を受けていない女性の割合の方が若干高い。

図9-7の「経済的支援」の有無についてみると、親から支援を受ける妻よりも親へ支援を行う妻の割合の方が高い。しかし妻の母の場合には、経済的支援を受ける妻の割合は比較的高く、同居で支援を行っている妻が86.7%、支援を受けている妻が70.1%、別居でも前者が81.1%、後者が63.6%となっており両者間の差は一番小さい。

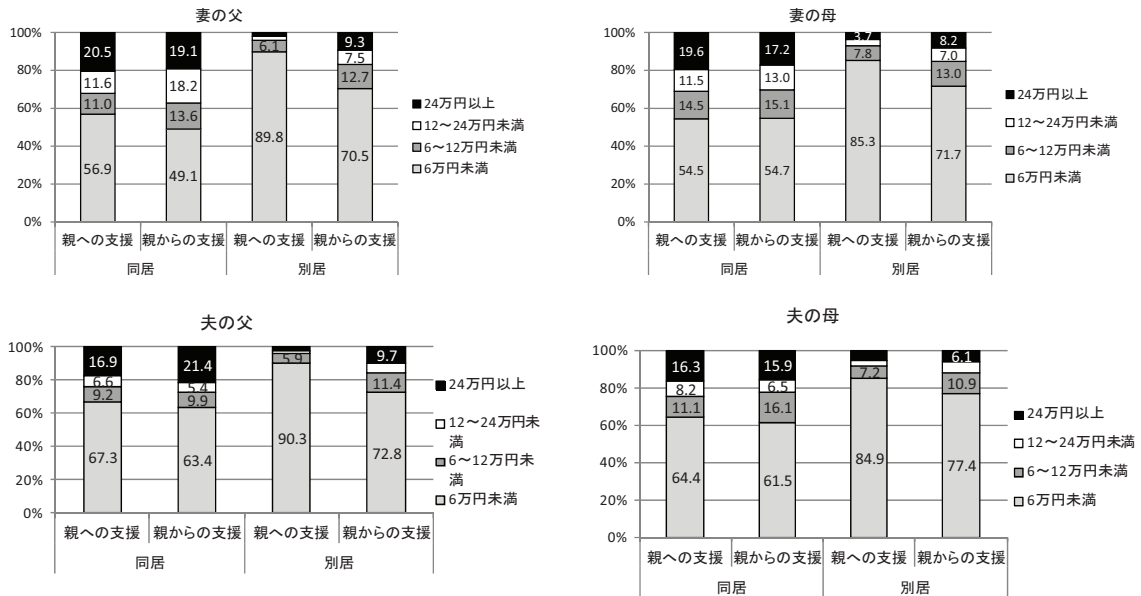
経済的支援を行った妻、親に限定しその支援金額の内訳をみると、親からの支援の金額の内訳と、親への支援の金額の内訳には、同居か別居かによって大きな違いがみられる。同居の場合は夫方・妻方、父・母にかかわらず、概ね支援金額の内訳は親からの金額も親への金額も似たような構成になっている。例えば同居している妻の母にたいして6万未満の支援を行った妻は54.5%、6~12万円未満は14.5%、12~24万円未満は11.5%、24万円以上は19.6%である。一方、同居している妻の母から6万未満の支援を受けた者は54.7%、6~12万未満は15.1%、12~24万未満は13.0%、24万以上は17.2%となっており、ほぼ同レベルの金銭的やり取りがなされていることがわかる。同様の傾向は同居の場合、夫の母についてもみられる。しかし、父の場合には夫方妻方にかかわらず、親からの支援金額の方が高めの構成割合になっている。

一方別居の場合は、親への支援金額より親からの支援金額の方が高い傾向がみられる。例えば、別居している妻の母に対して6万未満の支援を行った妻は85.3%、6~12万円未満は7.8%、12~24万円未満は3.2%、24万以上は3.7%と圧倒的に6万円未満の割合が高い。一方、別居する母から6万円未満の支援を受けた妻は71.7%、6~12万円未満は13.0%、12~24万円未満は7.0%、24万以上は8.2%となっており、親からの支援金額の方が親への支援金額が高いことがうかがえる。同様の傾向は、全ての親に共通している。

図 9-7 親との同別居別、親への経済的支援と親からの経済的支援



注) 妻の年齢が 70 歳未満について集計。



注) 妻の年齢が 70 歳未満で親へ経済的支援をした妻と、妻の年齢が 70 歳未満で親から経済的支援を受けた妻とについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

<参考資料>

図9-1 親との同別居別、親との会話頻度(第5回調査) (%)

同別居	親	ケース数	毎日	週に	週に	月に	年に数回	ほとんど しない
				3~4回	1~2回	1~2回		
同居	妻の父	173	86.7	6.9	1.2	1.7	1.2	2.3
	妻の母	271	91.5	5.2	0.7	0.7	0.4	1.5
	夫の父	432	80.6	7.6	5.6	1.6	1.2	3.5
	夫の母	731	86.5	6.3	3.3	1.2	0.3	2.5
別居	妻の父	2,234	8.2	11.6	24.8	34.8	15.4	5.2
	妻の母	3,169	11.0	18.3	27.0	30.4	10.3	3.0
	夫の父	1,555	8.1	7.5	14.0	30.5	28.2	11.7
	夫の母	2,230	7.6	7.9	15.1	33.3	25.8	10.3

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図9-2 親との同別居別、子から親への支援割合 (%)

親	ケース数		日常の買い物		食事		洗濯		掃除・片付け	
	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
妻の父	178	2,221	68.0	15.9	79.2	15.5	72.5	6.8	69.1	12.4
妻の母	282	3,179	79.1	26.6	81.6	17.9	69.2	8.8	72.3	15.5
夫の父	437	1,573	49.2	7.8	70.5	9.4	43.7	3.0	50.1	5.9
夫の母	754	2,265	60.2	13.3	73.3	10.8	43.4	4.3	53.1	7.6

親	悩み事の相談		病気の時の世話		その他		支援無し	
	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
妻の父	22.5	12.4	36.5	13.5	12.4	18.9	8.4	49.3
妻の母	35.8	30.0	51.4	17.7	13.5	21.9	6.7	34.3
夫の父	9.6	4.5	24.9	7.1	19.0	16.8	14.4	65.0
夫の母	16.6	10.8	32.9	9.8	19.0	19.2	11.8	55.2

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

図9-3 親との同別居別、親への経済的支援と支援金額

親	ケース数		経済的支援(%)	
	同居	別居	同居	別居
妻の父	171	2,232	85.4	78.8
妻の母	271	3,180	86.7	81.1
夫の父	428	1,584	81.5	76.4
夫の母	736	2,270	81.0	78.1

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

親	ケース数		6万円未満		6~12万円未満		12~24万円未満		24万円以上	
	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
妻の父	146	1,758	56.9	89.8	11.0	6.1	11.6	2.1	20.5	2.0
妻の母	235	2,578	54.5	85.3	14.5	7.8	11.5	3.2	19.6	3.7
夫の父	349	1,210	67.3	90.3	9.2	5.9	6.6	1.4	16.9	2.5
夫の母	596	1,772	64.4	84.9	11.1	7.2	8.2	2.9	16.3	5.0

注) 妻の年齢が70歳未満で、親へ経済的支援を行った妻について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図9-4 親との同別居別、親からの支援割合 (%)

親	ケース数		日常の買い物		食事		洗濯		掃除・片付け	
	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
妻の父	172	2,172	28.5	10.5	19.8	15.2	18.6	1.7	27.9	3.6
妻の母	276	3,119	38.8	14.9	52.5	25.4	48.6	6.9	48.6	7.6
夫の父	414	1,539	12.3	4.6	10.4	12.2	3.9	0.9	10.4	1.2
夫の母	736	2,225	22.3	7.2	37.2	18.2	22.3	3.2	29.8	3.0

親	悩み事の相談		病気の時の世話		孫の世話		その他		支援無し	
	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
妻の父	16.3	12.3	9.3	2.4	46.5	32.6	15.7	17.6	22.7	39.7
妻の母	25.0	24.0	17.8	5.8	40.9	30.4	10.5	16.3	22.5	37.5
夫の父	5.1	4.0	2.7	0.7	36.0	26.4	14.3	14.0	42.0	51.3
夫の母	9.2	7.4	7.1	1.9	35.2	24.9	13.7	14.4	33.8	51.5

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

図9-5 親との同別居別、親からの経済的支援と支援金額

親	ケース数		経済的支援 (%)	
	同居	別居	同居	別居
妻の父	170	2,225	64.7	62.6
妻の母	274	3,176	70.1	63.6
夫の父	431	1,578	56.4	56.0
夫の母	748	2,271	57.4	54.3

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

親	ケース数		6万円未満		6~12万円未満		12~24万円未満		24万円以上	
	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居
妻の父	110	1,392	49.1	70.5	13.6	12.7	18.2	7.5	19.1	9.3
妻の母	192	2,019	54.7	71.7	15.1	13.0	13.0	7.0	17.2	8.2
夫の父	243	883	63.4	72.8	9.9	11.4	5.4	6.0	21.4	9.7
夫の母	429	1,232	61.5	77.4	16.1	10.9	6.5	5.6	15.9	6.1

注) 妻の年齢が70歳未満で、親から経済的支援を受けた妻について集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図9-6 親との同別居別、親への支援と親からの支援 (%)

親	ケース数				日常の買い物				食事			
	同居		別居		同居		別居		同居		別居	
	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援
妻の父	178	172	2,221	2,172	68.0	28.5	15.9	10.5	79.2	19.8	15.5	15.2
妻の母	282	276	3,179	3,119	79.1	38.8	26.6	14.9	81.6	52.5	17.9	25.4
夫の父	437	414	1,573	1,539	49.2	12.3	7.8	4.6	70.5	10.4	9.4	12.2
夫の母	754	736	2,265	2,225	60.2	22.3	13.3	7.2	73.3	37.2	10.8	18.2

親	洗濯				掃除・片付け				悩み事の相談			
	同居		別居		同居		別居		同居		別居	
	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援
妻の父	72.5	18.6	6.8	1.7	69.1	27.9	12.4	3.6	22.5	16.3	12.4	12.3
妻の母	69.2	48.6	8.8	6.9	72.3	48.6	15.5	7.6	35.8	25.0	30.0	24.0
夫の父	43.7	3.9	3.0	0.9	50.1	10.4	5.9	1.2	9.6	5.1	4.5	4.0
夫の母	43.4	22.3	4.3	3.2	53.1	29.8	7.6	3.0	16.6	9.2	10.8	7.4

親	病気の時の世話				その他				支援無し			
	同居		別居		同居		別居		同居		別居	
	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援
妻の父	36.5	9.3	13.5	2.4	12.4	15.7	18.9	17.6	8.4	22.7	49.3	39.7
妻の母	51.4	17.8	17.7	5.8	13.5	10.5	21.9	16.3	6.7	22.5	34.3	37.5
夫の父	24.9	2.7	7.1	0.7	19.0	14.3	16.8	14.0	14.4	42.0	65.0	51.3
夫の母	32.9	7.1	9.8	1.9	19.0	13.7	19.2	14.4	11.8	33.8	55.2	51.5

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

図9-7 親との同別居別、親への経済的支援と親からの経済的支援

親	ケース数				経済的支援(%)			
	同居		別居		同居		別居	
	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援
妻の父	171	170	2,232	2,225	85.4	64.7	78.8	62.6
妻の母	271	274	3,180	3,176	86.7	70.1	81.1	63.6
夫の父	428	431	1,584	1,578	81.5	56.4	76.4	56.0
夫の母	736	748	2,270	2,271	81.0	57.4	78.1	54.3

注) 妻の年齢が70歳未満について集計。

(%)

親	ケース数				6万円未満				6~12万円未満			
	同居		別居		同居		別居		同居		別居	
	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援
妻の父	146	110	1,758	1,392	56.9	49.1	89.8	70.5	11.0	13.6	6.1	12.7
妻の母	235	192	2,578	2,019	54.5	54.7	85.3	71.7	14.5	15.1	7.8	13.0
夫の父	349	243	1,210	883	67.3	63.4	90.3	72.8	9.2	9.9	5.9	11.4
夫の母	596	429	1,772	1,232	64.4	61.5	84.9	77.4	11.1	16.1	7.2	10.9

親	12~24万円未満				24万円以上			
	同居		別居		同居		別居	
	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援	親への支援	親からの支援
妻の父	11.6	18.2	2.1	7.5	20.5	19.1	2.0	9.3
妻の母	11.5	13.0	3.2	7.0	19.6	17.2	3.7	8.2
夫の父	6.6	5.4	1.4	6.0	16.9	21.4	2.5	9.7
夫の母	8.2	6.5	2.9	5.6	16.3	15.9	5.0	6.1

注) 妻の年齢が70歳未満で親へ経済的支援をした妻と、妻の年齢が70歳未満で親から経済的支援を受けた妻とについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

10章. 妻からみた成人子との関係¹

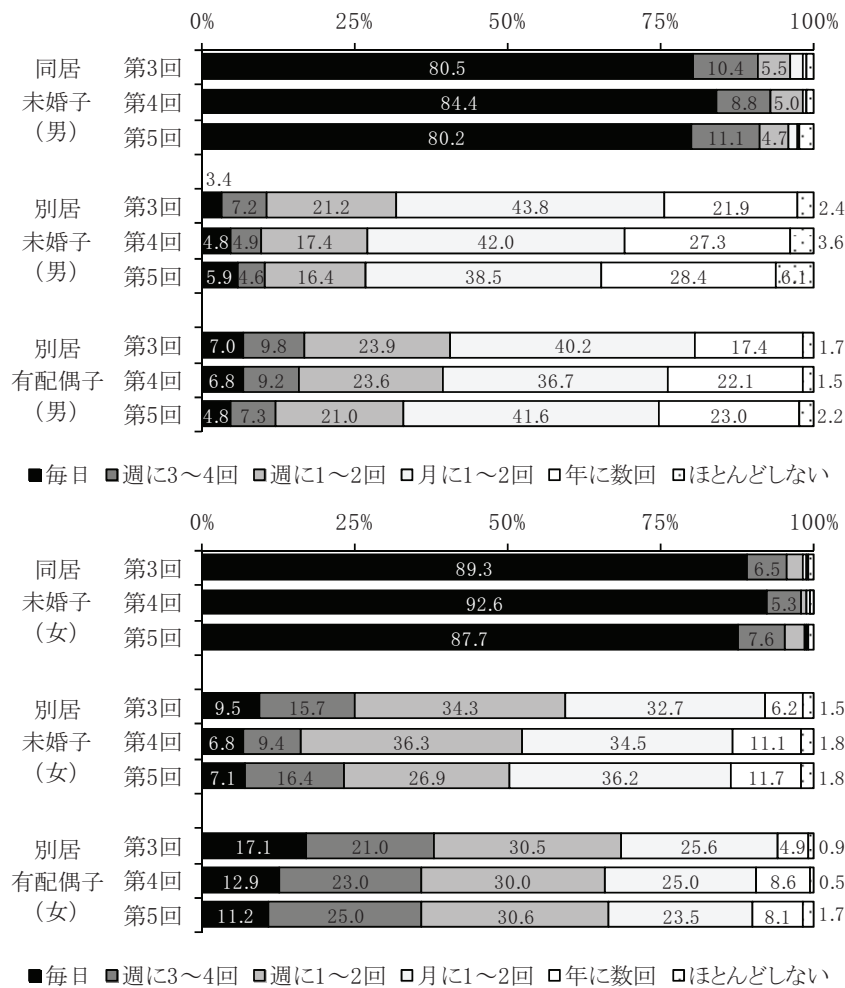
(山内昌和)

1. 会話頻度

妻と子との会話頻度を整理したのが図 10-1 である。同じ居住状態や配偶関係にある場合は、子の性別が女性の会話頻度は男性より高い傾向にある。

同居未婚子の場合、「毎日」の割合が 80% を超えて圧倒的に高く、「週に 3~4 回」を加

図 10-1 調査回別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻と子の会話頻度



注) 子の年齢が 20~49 歳について集計。同居と別居の区分は、第 3 回調査の間 8(6)、第 4 回調査の間 5(4)、第 5 回調査の間 10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。また、第 3 回調査と第 4 回調査の会話頻度の「年に数回」と「年に 1~2 回」はまとめて「年に数回」とした。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

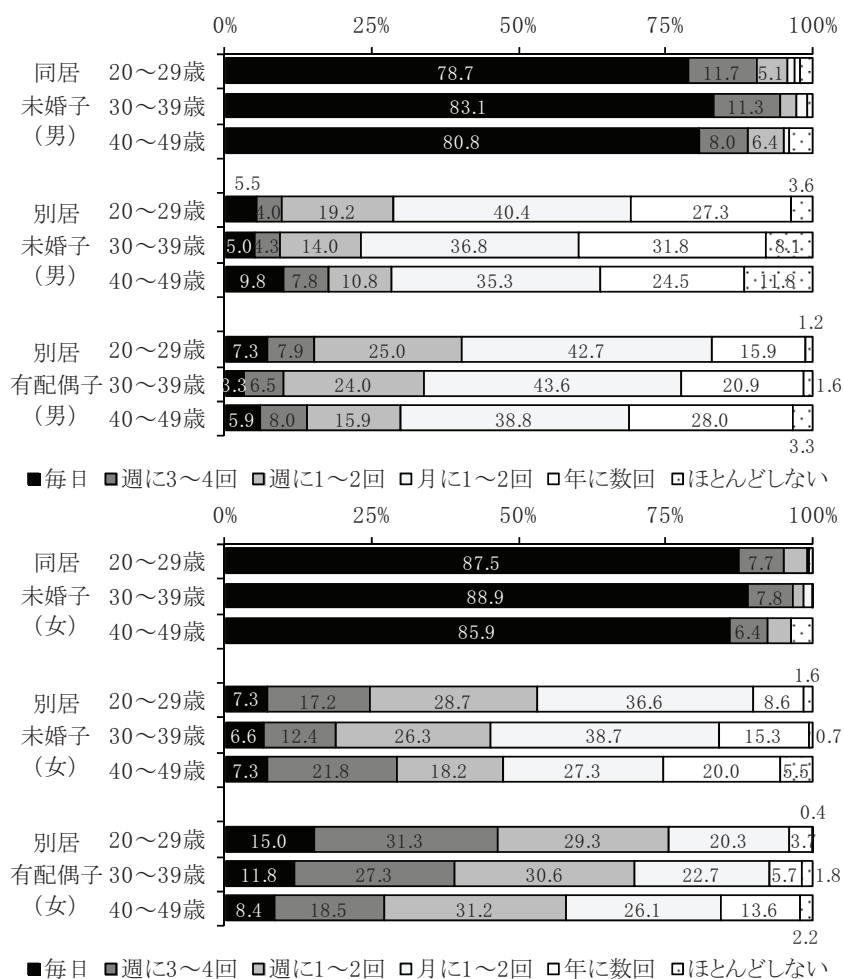
¹ 妻からみた子との関係は第 1 回調査から尋ねているが、第 2 回調査までと第 3 回調査以降で対象となる子が異なる。第 1 回調査では「つきあいの多い」2 人の成人子と、成人子のうち会う頻度や会話の頻度が高かった子との関係を探った。第 2 回調査では、「もっとも多く世話をしている」2 人の成人子との関係を探った。第 3 回調査以降は、18 歳以上の子との関係を出生順に上位 3 人まで（第 3 回調査のみ 4 人まで）を探った。また、全国家庭動向調査の回答者が結婚経験のある女性であり、同一世帯内に該当者が複数いる場合にはもっとも若い世代となるため、回答者である妻にとっての成人子は、同居未婚者、別居未婚者、別居有配偶者、別居死離別者となる。このうち別居死離別者は数が少ないため、ここではそれ以外の 3 類型を対象とする。回答者である妻にとっての成人子の数は様々であるが、ここでは最大で 3 人まで、すなわち 4 人以上の成人子がいる場合には出生順位が上位の 3 人までとした。

えれば90%を超える。子の性別が女性ではこれら2つの割合の合計が95%を超える。第4回調査でやや「毎日」の割合が高いものの、第3回調査以降の基本的なパターンに変化はみられない。

別居未婚子の場合、同居未婚子に比べて会話頻度は少なく、「週に1~2回」以上の割合は第3回調査以降低下している。子の性別が男性では「月に1~2回」の割合が40%前後で最大であり、「年に数回」や「週に1~2回」がそれに次ぐ。第5回調査では「年に数回」の割合が28.4%と第3回調査以降で最大となり、「ほとんどしない」の割合と合わせると30%を超える。子の性別が女性では「週に1~2回」と「月に1~2回」の割合が同程度でもっとも高く、両者を合わせると60%を超える。過去2回の調査と異なり、第5回調査では「月に1~2回」の割合が「週に1~2回」を上回った。

別居有配偶子の会話の頻度は、別居未婚子より多いものの同居未婚子より少ない。子の性別が男性では「月に1~2回」の割合が40%前後でもっとも高く、「年に数回」や「週に1~2回」がそれに次ぐ。第5回調査では「年に数回」の割合が23.0%で第3回調査以降で最大となった一方、「週に1~2回」以上の割合は第3回調査以降低下した。子の性別が女性では「週に1~2回」の割合が30%程度でもっとも高く、それに次ぐ「月に1~2回」や「週に3~4回」は20%台前半でほぼ同水準である。

図 10-2 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻と子の会話頻度（第5回調査）



注) 子の年齢が20~49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

第5回調査について、子の年齢別に整理したのが図10-2である。未婚同居子の場合、「40～49歳」で「ほとんどしない」の割合がやや高い点を除けば年齢による差はそれほど明瞭でない。いずれの年齢でも「毎日」の割合が非常に高く、これに次ぐ「週に3～4回」の割合と合わせるとほぼ90%以上となる。

別居未婚子の場合、子の年齢とともに割合が増すのは会話頻度が非常に少ない「ほとんどしない」（子の性別が男性）と「年に数回」（子の性別が女性）のみである。その一方で、「週に1～2回」以上の割合は「20～29歳」でやや高いものの、「30～39歳」で「40～49歳」より低くなっている。

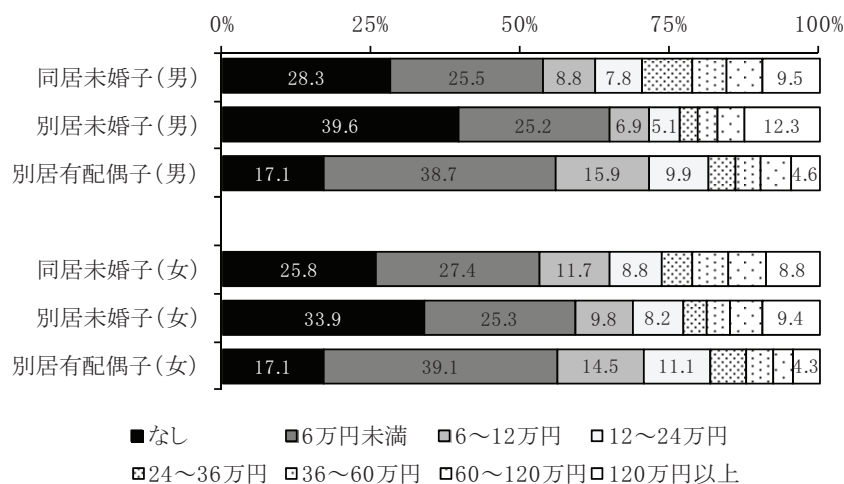
これに対して別居有配偶子の場合、子の年齢とともに「週に1～2回」以上の割合は低下し、「月に1～2回」以下の割合が増える。「週に1～2回」以上の割合を「20～29歳」と「40～49歳」で比較すると、子の性別が男性の場合は40.2%から29.8%へ、子の性別が女性の場合は75.6%から58.2%へそれぞれ低下する。

2. 金額に換算したお金や物品の授受²

(1) 子や孫に対する援助

過去1年間に妻が子や孫のために使った金額を示したのが図10-3である。同じ居住状態や配偶関係にある場合、子の性別による差はそれほど大きなものではない。この点は、先にみた会話頻度とは異なっている。

図10-3 子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去1年間に子や孫のために使った金額（第5回調査）



注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

² 全国家庭動向調査で親子間での金銭の授受を尋ねるようになったのは第3回調査以降のことである。第3回調査と第4回調査では「お子さんに、生活費やお小遣いとして月々にどのくらい渡していますか」、「お子さんから、あなたの家計への経済的な支援は月々にどのくらいありますか」と尋ねていたのに対し、第5回調査では「この1年間に、このお子さんやお孫さんのために使ったお金の合計金額はどれくらいですか」、「この1年間に、このお子さんから受け取ったお金や物品の合計金額はどれくらいですか」と尋ねている。第5回調査の結果を第3回調査や第4回調査と比較することは困難であり、ここでは第5回調査の結果のみを整理した。

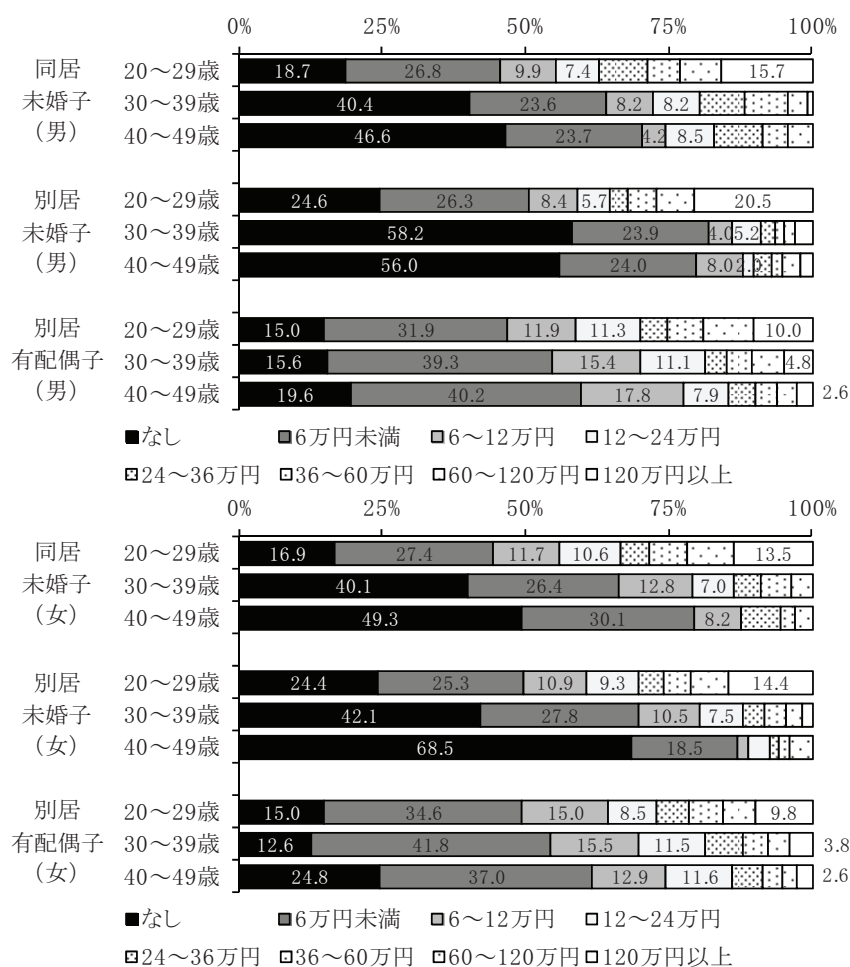
同居未婚子の場合、「なし」と「6万円未満」の割合がそれぞれ25%を超えてもっとも高く、両者で50%を超える。その一方で、少なくない金額を援助しているケースもみられる。例えば、1カ月平均で3万円以上となる「36～60万円」、「60～120万円」、「120万円以上」の割合を合計すると20%を超えており、このうち1カ月平均で10万円以上にもなる「120万円以上」の割合は10%近くにも達する。

別居未婚子の場合、同居未婚子と類似するものの、両者の最大の違いは「なし」の割合である。別居未婚子の「なし」の割合は、子の性別が男性で39.6%、女性で33.9%であり、「6万円未満」の割合と合わせると60%前後となる。その一方で、「36～60万円」、「60～120万円」、「120万円以上」の割合を合計すると20%前後となり、このうち「120万円以上」の割合は同居未婚子を上回る。

別居有配偶子の場合、未婚子に比べて「なし」や「60～120万円」、「120万円以上」の割合が低く、1カ月平均で3万円未満の援助となる「6万円未満」から「24～36万円」の割合が相対的に高い。

子の年齢別に、子や孫のために1年間に使った金額を示したのが図10-4である。同居未婚子、別居未婚子ともに「20～29歳」の場合、「なし」の割合が低い一方で「36～60万円」、「60～120万円」、「120万円以上」の割合が相対的に高い。それに対し「30～39歳」

図10-4 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去1年間に子や孫のために使った金額（第5回調査）



注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の問10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

と「40～49歳」では「なし」の割合が高い。「なし」と「6万円未満」の割合を合わせると「40～49歳」では70%を超える。

別居有配偶子の場合、「なし」の割合は子の性別や年齢に関わらずおおむね20%前後であるが、子の年齢が若い方が高い金額の占める割合は高い。例えば、「36～60万円」、「60～120万円」、「120万円以上」の割合を合計すると、子の性別が男性の「20～29歳」で25.0%に対し「40～49歳」で9.7%、子の性別が女性ではそれぞれ21.4%、8.4%であった。

(2)子からの援助

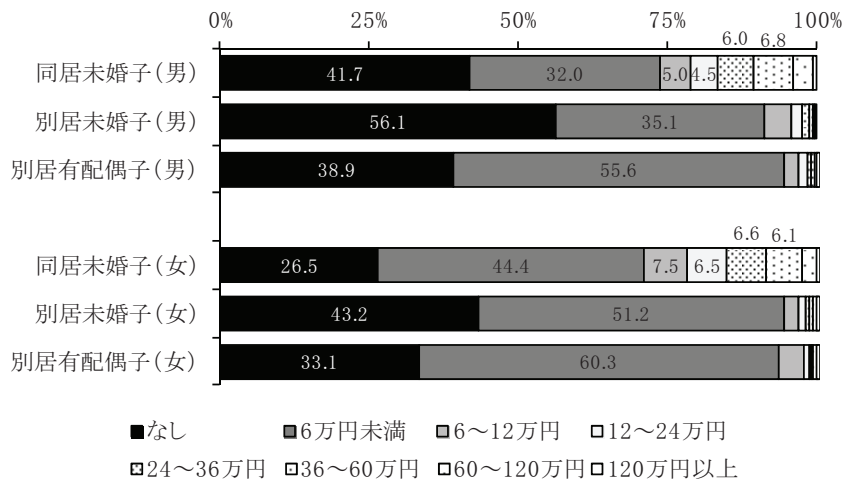
過去1年間に妻が子から受けたお金や物品の合計金額を示したのが図10-5である。居住状態や配偶関係、子の性別にかかわらず「なし」と「6万円未満」の割合が高く、この点は上述した過去1年間に子や孫のために使った金額とは対照的である。ただし、同じ居住状態や配偶関係にある場合、子の性別が女性の方が「なし」の割合は低く「6万円未満」の割合が高い。

同居未婚子の場合、子の性別が男性では「なし」の割合が41.7%と最大で、その次に多い「6万円未満」の割合と合わせると73.7%となる。子の性別が女性では「6万円未満」の割合が44.4%と最大で、その次に多い「なし」の割合と合わせるとの70.9%となる。後述する別居未婚子や別居有配偶子に比べて6万円以上の割合が高いものの、そのほとんどは1か月平均で5万円未満までの「36～60万円」までであり、それより多い「60～120万円」、「120万円以上」の割合の合計は子の性別が男性で3.9%、女性で2.4%であった。

別居未婚子の場合、同居未婚子に比べて「なし」の割合が高く、子の性別が男性では56.1%、女性では43.2%であり、「6万円未満」の割合と合わせると90%を超える。その一方で6万円以上の割合は低く、子の性別が男性では8.8%、女性では5.6%である。

別居有配偶子の場合、「6万円未満」の割合が高く、「なし」の割合が相対的に低いものの、両者合わせると90%を超え、6万円以上の割合が10%を下回る点は別居未婚子と同様である。

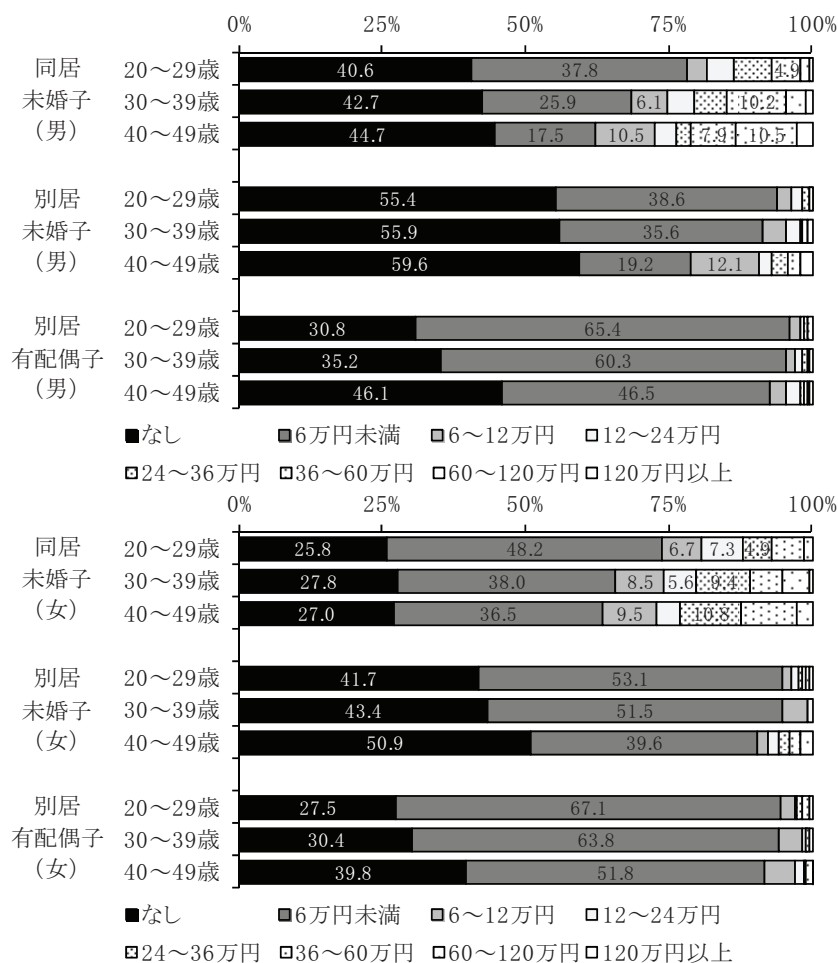
図10-5 子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去1年間に子から受けたお金や物品の合計金額（第5回調査）



注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

子の年齢別に、子から受けたお金や物品の合計金額を示したのが図 10-6 である。同じ居住状態や配偶関係にある場合、子の性別が女性の方が「なし」の割合が低いことや、同居未婚子の場合に 6 万円以上の割合が高いといった違いはあるものの、同居未婚子、別居未婚子、別居有配偶子に共通して、子の年齢が増すと「なし」の割合と 6 万円以上の割合が増え、「6 万円未満」の割合が減る。

図 10-6 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去 1 年間に子から受けたお金や物品の合計金額（第 5 回調査）



注) 子の年齢が 20~49 歳について集計。同居と別居の区分は、第 5 回調査の間 10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

3. 世話や手助け³

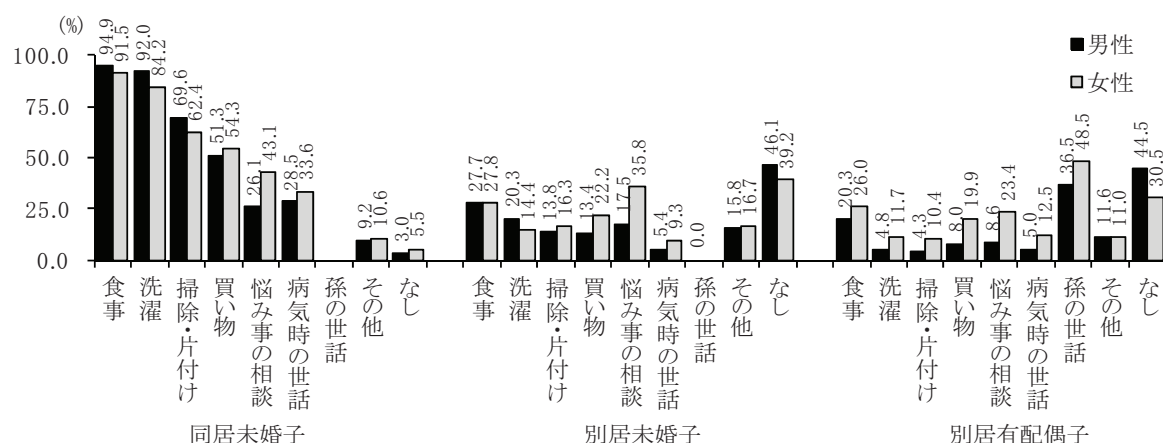
(1) 過去 1 年間における子への支援

世話や手助けの種類別に世話をした妻の割合を整理したのが図 10-7 である。同居未婚子

³ 親子間での世話や手助けについては第 3 回調査と第 4 回調査では「お子さんが 18 歳になって以降、あなたはどのような世話や手助けをしましたか」と尋ねていた。第 5 調査では、妻が子に対して行った世話や手助けのみならず妻が子から受けた世話や手助けについても尋ねた。また、18 歳になって以降調査時点までの世話や手助けの他に、過去 1 年間に限定した世話や手助けについても尋ねた。

の場合、「その他」や「なし」を除いて高い値を示しており、とくに「食事」は90%以上、「洗濯」は80%以上、「掃除・片付け」は60%以上の高い値を示す。子の性別による違いをみると、「食事」や「洗濯」、「掃除・片付け」は男性、「買い物」や「悩み事の相談」、「病気の世話」は女性が高い値を示し、なかでも「悩み事の相談」は男女の差が大きい。

図 10-7 子の性別、居住状態別、配偶関係別、過去1年間に子へ支援した妻の割合（第5回調査）



注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の問10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。「孫の世話」は別居有配偶子のみ集計。

表 10-1 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、過去1年間に子へ支援した妻の割合（第5回調査）

配偶関係	同別居	性	年齢	ケース数	支援した妻の割合 (%)								
					食事	洗濯	掃除・片付け	買い物	悩み事の相談	病気の世話	孫の世話	その他	なし
未婚	同居	男	20～29歳	612	97.2	95.4	77.5	61.4	32.7	35.3		10.8	1.3
			30～39歳	300	93.3	89.0	61.0	38.0	18.7	20.7		8.3	4.0
			40～49歳	127	87.4	82.7	52.0	33.9	11.8	14.2		3.9	8.7
		女	20～29歳	568	95.8	91.9	70.8	62.3	52.6	42.1		10.4	2.6
			30～39歳	241	86.3	73.9	48.1	43.2	29.0	21.2		11.2	9.1
			40～49歳	71	74.6	57.7	43.7	28.2	14.1	8.5		9.9	15.5
未婚	別居	男	20～29歳	413	32.2	26.4	19.9	20.3	23.5	6.5		21.8	35.1
			30～39歳	245	19.6	13.1	6.9	6.5	11.0	3.3		10.2	61.6
			40～49歳	101	28.7	12.9	5.9	2.0	8.9	5.9		5.0	53.5
		女	20～29歳	307	35.2	19.5	20.8	29.3	44.0	11.1		18.6	29.0
			30～39歳	132	14.4	6.1	8.3	10.6	25.8	6.1		15.2	53.0
			40～49歳	53	18.9	5.7	9.4	9.4	13.2	7.5		9.4	64.2
有配偶	別居	男	20～29歳	162	30.2	11.7	6.2	16.7	14.2	6.2	34.6	13.6	37.0
			30～39歳	617	20.4	4.2	4.4	8.3	8.6	5.7	42.1	11.5	38.9
			40～49歳	489	16.8	3.3	3.7	4.7	6.7	3.9	30.1	11.0	54.0
		女	20～29歳	245	38.0	24.1	20.4	38.4	36.3	18.0	48.6	13.5	17.6
			30～39歳	810	29.8	12.3	10.1	21.2	24.9	14.1	58.3	11.6	23.8
			40～49歳	524	14.5	4.8	6.1	9.4	14.9	7.6	33.4	8.8	46.9

注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の問10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。「孫の世話」は別居有配偶子のみ集計した。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

別居未婚子の場合、同居未婚子に比べて「なし」の割合が40%程度と高い。それ以外の項目で20%以上の値を示すのが「食事」、男性の「洗濯」、女性の「買い物」と「悩み事の相談」である。

別居有配偶子の場合、30%を超える「孫の身の回りの世話」を除けば、どの支援についても別居未婚子よりも低い割合である。ただし、子の性別による差、すなわち男性に比べて女性に対して支援する割合が高い点が特徴であり、未婚子では男性の方が高い割合となる「食事」や「洗濯」でも、別居有配偶子では女性の方が高い割合となる。

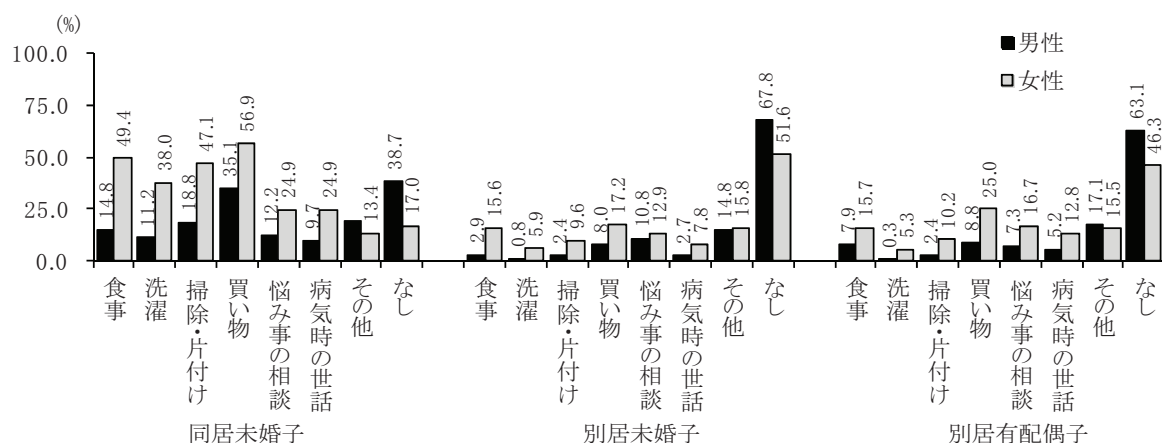
子の年齢別に世話や手助けの種類別に世話をした妻の割合を整理したのが表10-1である。一部例外はみられるものの、総じて子の年齢が若いと妻が世話をした割合は高く、子の年齢が上がるとその割合は低くなる。

(2) 過去1年間における子からの支援

世話や手助けの種類別に子から支援を受けた妻の割合を整理したのが図10-8である。いずれも子の性別による差が明瞭であり、居住状態や配偶関係が同じ場合には子の性別が女性で子から支援を受ける割合が高く、男性で「なし」の割合が高い。

同居未婚子の場合、支援を受ける割合は、子の性別が女性では「買い物」が56.9%、「食事」が49.4%、「掃除・片付け」が47.1%の順であった。子の性別が男性では「買い物」がもっとも高い35.1%であり、他は20%を下回る。先述の妻が世話をした割合と比較すると、子から世話を受ける割合の方が低く、その差はとくに子の性別が男性で顕著である。

図10-8 子の性別、居住状態別、配偶関係別、過去1年間に子から支援を受けた妻の割合 (第5回調査)



注) 子の年齢が20~49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の問10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

別居未婚子の場合、同居未婚子に比べ支援を受ける割合は低く、「なし」の割合が50%を超える。支援を受けた割合が10%を超える項目は、子の性別が女性で「買い物」や「食事」など複数あるが、男性では「その他」のみである。妻が世話をした割合と比較すると、やはり子から世話を受ける割合は低い。

別居有配偶子の場合、支援を受ける割合は同居未婚子より低い別居未婚子より若干高く、「なし」の割合は男性で63.1%、女性で46.3%である。支援を受けた割合が10%を超

える項目は、子の性別が女性で「買い物」や「食事」など複数みられるが、子の性別が男性では「その他」のみである。妻が世話をした割合と比較すると、やはり子から世話を受ける割合は低い。

子の年齢別に世話や手助けの種類ごとに世話を受けた妻の割合を整理したのが表 10-2 である。子の年齢との関係はそれほど明瞭ではない。表 10-1 では子の年齢が増すと世話をした割合が低下する傾向にあったが、同様の傾向は別居有配偶子で子の性別が女性にのみみられた。

表 10-2 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、過去 1 年間に子から支援を受けた妻の割合（第 5 回調査）

(%)

配偶関係	同別居	性	年齢	ケース数	食事	洗濯	掃除・片付け	買い物	悩み事の相談	病気時の世話	その他	なし
未婚	同居	男	20～29歳	583	16.3	14.2	22.1	35.7	13.2	10.5	20.6	36.4
			30～39歳	284	11.6	5.3	13.7	32.0	10.9	8.5	18.3	45.1
			40～49歳	116	14.7	10.3	14.7	39.7	10.3	8.6	15.5	34.5
		女	20～29歳	549	49.9	37.2	46.6	57.7	26.4	22.2	13.3	16.0
			30～39歳	231	49.8	42.4	49.4	53.7	22.9	30.7	11.7	18.6
			40～49歳	73	43.8	30.1	43.8	60.3	19.2	26.0	19.2	19.2
未婚	別居	男	20～29歳	409	4.2	1.5	2.7	8.8	10.8	2.2	16.4	66.5
			30～39歳	247	1.6	0.0	2.0	5.7	11.7	2.0	13.4	70.9
			40～49歳	92	1.1	0.0	2.2	10.9	8.7	6.5	12.0	65.2
		女	20～29歳	304	15.5	5.9	9.5	15.1	14.1	6.6	18.1	50.7
			30～39歳	131	12.2	3.1	6.1	19.1	9.9	6.1	13.0	58.0
			40～49歳	53	24.5	13.2	18.9	24.5	13.2	18.9	9.4	41.5
有配偶	別居	男	20～29歳	155	4.5	0.6	2.6	11.6	10.3	3.2	16.8	63.9
			30～39歳	590	8.0	0.3	3.2	8.3	7.5	4.1	18.0	63.2
			40～49歳	474	8.9	0.2	1.3	8.4	6.1	7.2	16.2	62.7
		女	20～29歳	237	19.4	6.8	13.9	30.0	20.3	9.7	15.2	42.6
			30～39歳	771	15.2	5.8	10.6	25.3	17.0	11.9	16.7	45.7
			40～49歳	512	14.6	3.7	7.8	22.3	14.6	15.4	13.7	49.0

注) 子の年齢が 20～49 歳について集計。同居と別居の区分は、第 5 回調査の間 10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。「孫の世話」は別居有配偶子のみ集計した。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

(3)子が 18 歳になって以降の子への支援

18 歳になって以降調査時点までの世話や手助けについては、子の結婚や出産と関連する項目が多いため、別居する有配偶子についてのみ検討する。

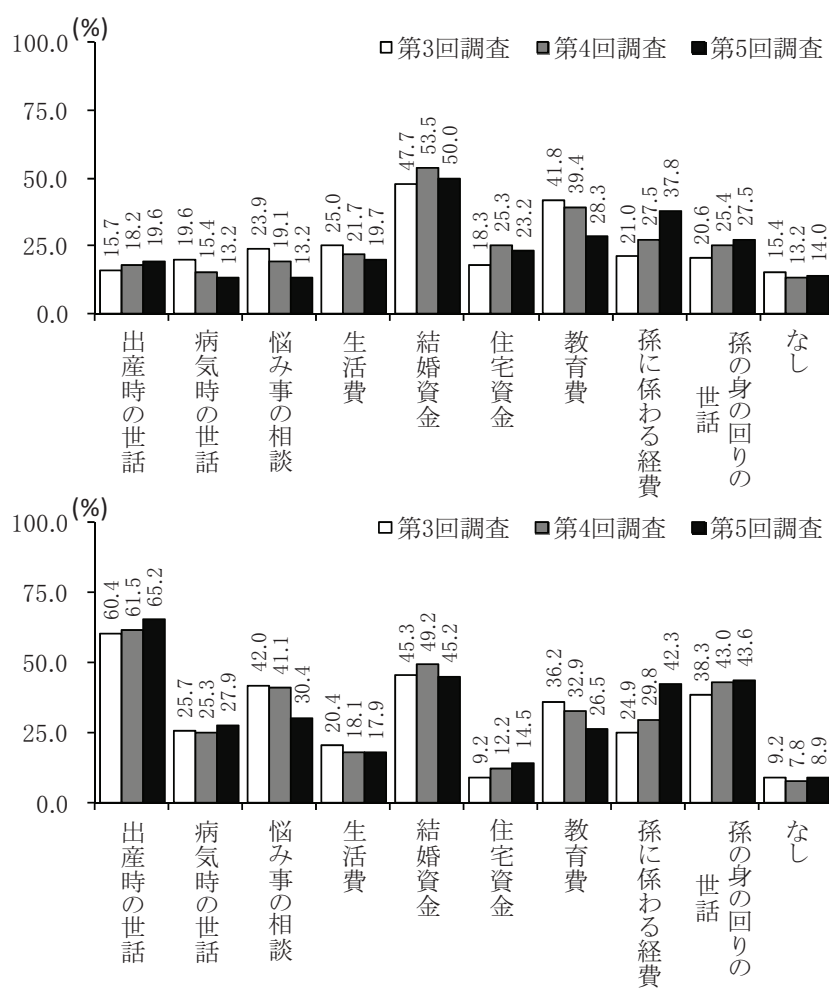
図 10-9 は世話や手助けの種類別に、世話をしたと回答した妻の割合を整理したものである。子の性別が男性の場合、「結婚資金」や「教育費」、「孫に係わる経費」といった項目の割合が高く、女性との比較では「住宅資金」の割合が相対的に高い。第 3 回調査以降の推移をみると、一貫して増えているのが「出産時の世話」、「孫に係わる経費」、「孫の身の回りの世話」であり、対照的に一貫して減っているのが「病気時の世話」、「悩み事の相談」、「生活費」、「教育費」である。

子の性別が女性の場合、「出産時の世話」や「結婚資金」、「孫の身の回りの世話」といった項目の割合が高く、男性との比較では「病気時の世話」や「悩み事の相談」の割合が相対的に高い。第 3 回調査以降の推移をみると、一貫して増えているのが「出産時の世話」、

「住宅資金」、「孫に係わる経費」、「孫の身の回りの世話」であり、対照的に一貫して減っているのが「悩み事の相談」、「生活費」、「教育費」である。

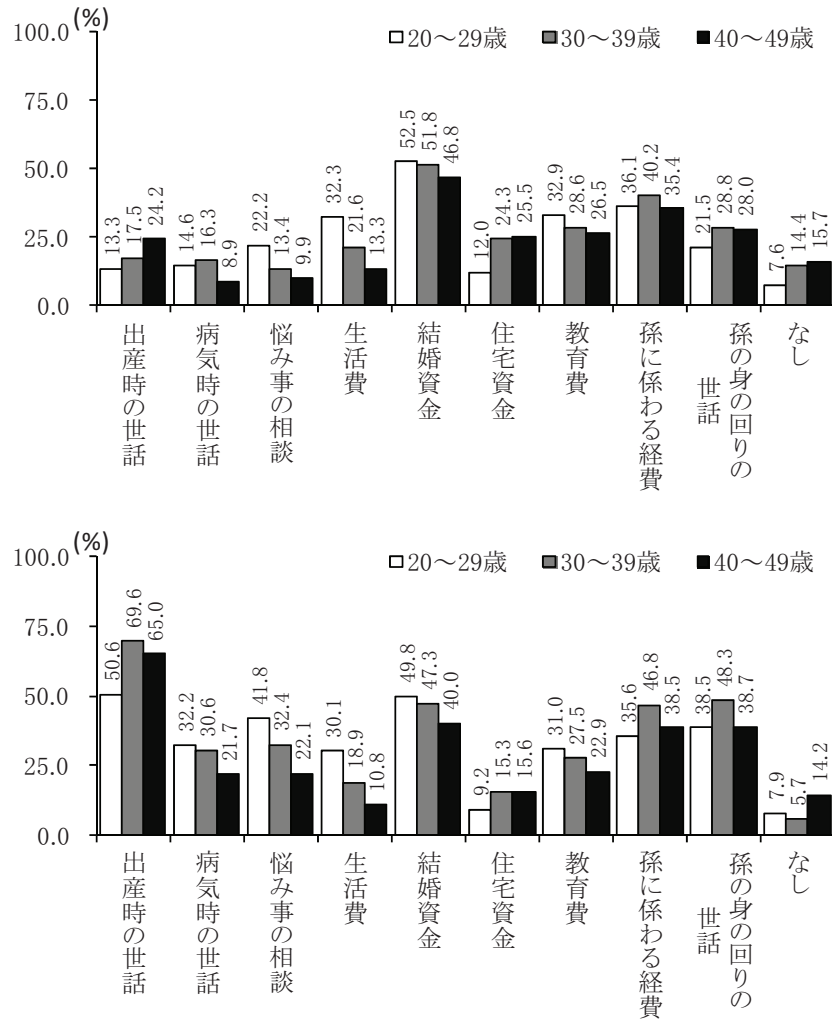
第5回調査について、子の年齢別に、世話や手助けの種類別に世話をした妻の割合を整理したのが図 10-10 である。子の年齢が高い方が世話をした割合が高いのは「出産時の世話」（子の性別が男性のみ）と「住宅資金」であり、その逆に子の年齢が若いほど世話をした割合が高いのは「病気時の世話」（子の性別が女性のみ）、「悩み事の相談」、「生活費」、「結婚資金」、「教育費」であった。

図 10-9 子の性別、有配偶別居子が 18 歳になって以降に支援した妻の割合（上：子の性別が男性 下：子の性別が女性）



注) 子の年齢が 20～49 歳について集計。同居と別居の区分は、第 5 回調査の間 10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

図 10-10 子の年齢別にみた子の性別、有配偶別居子が 18 歳になって以降に支援した妻の割合
(上：子の性別が男性 下：子の性別が女性)



注) 子の年齢が 20~49 歳について集計。同居と別居の区分は、第 5 回調査の間 10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

<参考資料>

図10-1 調査回別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻と子の会話頻度 (%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	調査回	ケース数	妻と子の会話頻度 (%)					
					毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	年に数回	ほとんどしない
同居	未婚	男性	第3回	1,200	80.5	10.4	5.5	1.9	0.6	1.1
			第4回	1,030	84.4	8.8	5.0	0.6	0.3	0.9
			第5回	1,032	80.2	11.1	4.7	1.5	0.4	2.1
別居	未婚	男性	第3回	787	3.4	7.2	21.2	43.8	21.9	2.4
			第4回	788	4.8	4.9	17.4	42.0	27.3	3.6
			第5回	781	5.9	4.6	16.4	38.5	28.4	6.1
別居	有配偶	男性	第3回	1,219	7.0	9.8	23.9	40.2	17.4	1.7
			第4回	1,233	6.8	9.2	23.6	36.7	22.1	1.5
			第5回	1,302	4.8	7.3	21.0	41.6	23.0	2.2
同居	未婚	女性	第3回	978	89.3	6.5	2.7	0.6	0.2	0.7
			第4回	879	92.6	5.3	1.1	0.3	0.1	0.5
			第5回	880	87.7	7.6	3.3	0.5	0.1	0.8
別居	未婚	女性	第3回	452	9.5	15.7	34.3	32.7	6.2	1.5
			第4回	487	6.8	9.4	36.3	34.5	11.1	1.8
			第5回	506	7.1	16.4	26.9	36.2	11.7	1.8
別居	有配偶	女性	第3回	1,506	17.1	21.0	30.5	25.6	4.9	0.9
			第4回	1,481	12.9	23.0	30.0	25.0	8.6	0.5
			第5回	1,614	11.2	25.0	30.6	23.5	8.1	1.7

注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第3回調査の間8(6)、第4回調査の間5(4)、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。また、第3回調査と第4回調査の会話頻度の「年に数回」と「年に1～2回」はまとめて「年に数回」とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図10-2 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻と子の会話頻度 (第5回調査) (%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	子の年齢	ケース数	妻と子の会話頻度 (%)					
					毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に1～2回	年に数回	ほとんどしない
同居	未婚	男性	20～29歳	606	78.7	11.7	5.1	1.5	0.7	2.3
			30～39歳	301	83.1	11.3	3.0	1.7	0.0	1.0
			40～49歳	125	80.8	8.0	6.4	0.8	0.0	4.0
別居	未婚	男性	20～29歳	421	5.5	4.0	19.2	40.4	27.3	3.6
			30～39歳	258	5.0	4.3	14.0	36.8	31.8	8.1
			40～49歳	102	9.8	7.8	10.8	35.3	24.5	11.8
別居	有配偶	男性	20～29歳	164	7.3	7.9	25.0	42.7	15.9	1.2
			30～39歳	628	3.3	6.5	24.0	43.6	20.9	1.6
			40～49歳	510	5.9	8.0	15.9	38.8	28.0	3.3
同居	未婚	女性	20～29歳	559	87.5	7.7	3.9	0.2	0.2	0.5
			30～39歳	243	88.9	7.8	1.6	1.2	0.0	0.4
			40～49歳	78	85.9	6.4	3.8	0.0	0.0	3.8
別居	未婚	女性	20～29歳	314	7.3	17.2	28.7	36.6	8.6	1.6
			30～39歳	137	6.6	12.4	26.3	38.7	15.3	0.7
			40～49歳	55	7.3	21.8	18.2	27.3	20.0	5.5
別居	有配偶	女性	20～29歳	246	15.0	31.3	29.3	20.3	3.7	0.4
			30～39歳	823	11.8	27.3	30.6	22.7	5.7	1.8
			40～49歳	545	8.4	18.5	31.2	26.1	13.6	2.2

注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図10-3 子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去1年間に子や孫のために使った金額 (第5回調査) (%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	ケース数	妻が過去1年間に子や孫のために使った金額 (%)							
				なし	6万円未満	6～12万円	12～24万円	24～36万円	36～60万円	60～120万円	120万円以上
同居	未婚	男性	1,003	28.3	25.5	8.8	7.8	8.4	5.9	5.9	9.5
別居	未婚	男性	770	39.6	25.2	6.9	5.1	2.9	3.5	4.5	12.3
別居	有配偶	男性	1,278	17.1	38.7	15.9	9.9	4.4	4.3	5.2	4.6
同居	未婚	女性	855	25.8	27.4	11.7	8.8	5.1	6.0	6.4	8.8
別居	未婚	女性	499	33.9	25.3	9.8	8.2	4.0	4.0	5.4	9.4
別居	有配偶	女性	1,576	17.1	39.1	14.5	11.1	6.0	4.4	3.5	4.3

注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図10-4 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去1年間に子や孫のために使った金額(第5回調査)
(%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	子の年齢	ケース数	なし	6万円未満	6~12万円	12~24万円	24~36万円	36~60万円	60~120万円	120万円以上
同居	未婚	男性	20~29歳	593	18.7	26.8	9.9	7.4	8.6	5.4	7.4	15.7
			30~39歳	292	40.4	23.6	8.2	8.2	7.9	7.5	3.4	0.7
			40~49歳	118	46.6	23.7	4.2	8.5	8.5	4.2	4.2	0.0
別居	未婚	男性	20~29歳	419	24.6	26.3	8.4	5.7	3.1	5.0	6.4	20.5
			30~39歳	251	58.2	23.9	4.0	5.2	2.4	1.6	2.0	2.8
			40~49歳	100	56.0	24.0	8.0	2.0	3.0	2.0	3.0	2.0
別居	有配偶	男性	20~29歳	160	15.0	31.9	11.9	11.3	5.0	6.3	8.8	10.0
			30~39歳	623	15.6	39.3	15.4	11.1	3.9	4.3	5.6	4.8
			40~49歳	495	19.6	40.2	17.8	7.9	4.8	3.6	3.4	2.6
同居	未婚	女性	20~29歳	555	16.9	27.4	11.7	10.6	5.0	6.7	8.1	13.5
			30~39歳	227	40.1	26.4	12.8	7.0	4.8	5.3	3.5	0.0
			40~49歳	73	49.3	30.1	8.2	0.0	6.8	2.7	2.7	0.0
別居	未婚	女性	20~29歳	312	24.4	25.3	10.9	9.3	4.5	4.5	6.7	14.4
			30~39歳	133	42.1	27.8	10.5	7.5	3.8	3.8	3.0	1.5
			40~49歳	54	68.5	18.5	1.9	3.7	1.9	1.9	3.7	0.0
別居	有配偶	女性	20~29歳	234	15.0	34.6	15.0	8.5	5.6	6.0	5.6	9.8
			30~39歳	809	12.6	41.8	15.5	11.5	6.6	4.7	3.6	3.8
			40~49歳	533	24.8	37.0	12.9	11.6	5.3	3.4	2.4	2.6

注) 子の年齢が20~49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図10-5 子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去1年間に子から受けたお金や物品の合計金額(第5回調査)
(%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	ケース数	なし	6万円未満	6~12万円	12~24万円	24~36万円	36~60万円	60~120万円	120万円以上
同居	未婚	男性	995	41.7	32.0	5.0	4.5	6.0	6.8	3.1	0.8
別居	未婚	男性	761	56.1	35.1	4.3	2.0	1.2	0.7	0.1	0.5
別居	有配偶	男性	1,268	38.9	55.6	2.3	1.6	0.6	0.6	0.3	0.2
同居	未婚	女性	858	26.5	44.4	7.5	6.5	6.6	6.1	2.3	0.1
別居	未婚	女性	498	43.2	51.2	2.4	1.2	0.6	0.6	0.6	0.2
別居	有配偶	女性	1,569	33.1	60.3	4.3	1.0	0.3	0.4	0.6	0.1

注) 子の年齢が20~49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図10-6 子の年齢別にみた子の性別、居住状態別、配偶関係別、妻が過去1年間に子から受けたお金や物品の合計金額(第5回調査)
(%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	子の年齢	ケース数	なし	6万円未満	6~12万円	12~24万円	24~36万円	36~60万円	60~120万円	120万円以上
同居	未婚	男性	20~29歳	588	40.6	37.8	3.4	4.6	6.8	4.9	1.5	0.3
			30~39歳	293	42.7	25.9	6.1	4.8	5.8	10.2	3.4	1.0
			40~49歳	114	44.7	17.5	10.5	3.5	2.6	7.9	10.5	2.6
別居	未婚	男性	20~29歳	415	55.4	38.6	2.7	1.7	1.2	0.2	0.2	0.0
			30~39歳	247	55.9	35.6	4.0	2.4	0.4	0.8	0.0	0.8
			40~49歳	99	59.6	19.2	12.1	2.0	3.0	2.0	0.0	2.0
別居	有配偶	男性	20~29歳	159	30.8	65.4	1.9	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0
			30~39歳	619	35.2	60.3	1.8	1.1	0.8	0.5	0.3	0.0
			40~49歳	490	46.1	46.5	3.1	2.4	0.4	0.6	0.4	0.4
同居	未婚	女性	20~29歳	550	25.8	48.2	6.7	7.3	4.9	5.8	1.3	0.0
			30~39歳	234	27.8	38.0	8.5	5.6	9.4	5.6	4.7	0.4
			40~49歳	74	27.0	36.5	9.5	4.1	10.8	9.5	2.7	0.0
別居	未婚	女性	20~29歳	309	41.7	53.1	1.6	1.3	0.6	0.6	0.6	0.3
			30~39歳	136	43.4	51.5	4.4	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
			40~49歳	53	50.9	39.6	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	0.0
別居	有配偶	女性	20~29歳	240	27.5	67.1	2.5	0.4	0.8	1.3	0.4	0.0
			30~39歳	802	30.4	63.8	4.0	0.7	0.1	0.4	0.5	0.0
			40~49歳	527	39.8	51.8	5.5	1.5	0.2	0.2	0.8	0.2

注) 子の年齢が20~49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図10-7 子の性別、居住状態別、配偶関係別、過去1年間に子へ支援した妻の割合(第5回調査) (%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	ケース数	食事	洗濯	掃除・片付け	買い物	悩み事の相談	病気時の世話	孫の世話	その他	なし
同居	未婚	男性	1,039	94.9	92.0	69.6	51.3	26.1	28.5	0.0	9.2	3.0
別居	未婚	男性	759	27.7	20.3	13.8	13.4	17.5	5.4	0.0	15.8	46.1
同居	有配偶	男性	1,268	20.3	4.8	4.3	8.0	8.6	5.0	36.5	11.6	44.5
同居	未婚	女性	880	91.5	84.2	62.4	54.3	43.1	33.6	0.0	10.6	5.5
別居	未婚	女性	492	27.8	14.4	16.3	22.2	35.8	9.3	0.0	16.7	39.2
別居	有配偶	女性	1,579	26.0	11.7	10.4	19.9	23.4	12.5	48.5	11.0	30.5

注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。「孫の世話」は別居有配偶子のみ集計。

図10-8 子の性別、居住状態別、配偶関係別、過去1年間に子から支援を受けた妻の割合(第5回調査) (%)

同別居	子の配偶関係	子の性別	ケース数	食事	洗濯	掃除・片付け	買い物	悩み事の相談	病気時の世話	その他	なし
同居	未婚	男性	983	14.8	11.2	18.8	35.1	12.2	9.7	19.3	38.7
別居	未婚	男性	748	2.9	0.8	2.4	8.0	10.8	2.7	14.8	67.8
別居	有配偶	男性	1,219	7.9	0.3	2.4	8.8	7.3	5.2	17.1	63.1
同居	未婚	女性	853	49.4	38.0	47.1	56.9	24.9	24.9	13.4	17.0
別居	未婚	女性	488	15.6	5.9	9.6	17.2	12.9	7.8	15.8	51.6
別居	有配偶	女性	1,520	15.7	5.3	10.2	25.0	16.7	12.8	15.5	46.3

注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

図10-9 子の性別、有配偶別居子が18歳になって以降に支援した妻の割合 (%)

子の性別	調査回	ケース数	出産時の世話	病気時の世話	悩み事の相談	生活費	結婚資金	住宅資金	教育費	孫に係わる経費	孫の身の回りの世話	なし
男性	第3回	1,177	15.7	19.6	23.9	25.0	47.7	18.3	41.8	21.0	20.6	15.4
	第4回	1,198	18.2	15.4	19.1	21.7	53.5	25.3	39.4	27.5	25.4	13.2
	第5回	1,253	19.6	13.2	13.2	19.7	50.0	23.2	28.3	37.8	27.5	14.0
女性	第3回	1,474	60.4	25.7	42.0	20.4	45.3	9.2	36.2	24.9	38.3	9.2
	第4回	1,454	61.5	25.3	41.1	18.1	49.2	12.2	32.9	29.8	43.0	7.8
	第5回	1,567	65.2	27.9	30.4	17.9	45.2	14.5	26.5	42.3	43.6	8.9

注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

図10-10 子の年齢別にみた子の性別、有配偶別居子が18歳になって以降に支援した妻の割合 (%)

子の性別	子の年齢	ケース数	出産時の世話	病気時の世話	悩み事の相談	生活費	結婚資金	住宅資金	教育費	孫に係わる経費	孫の身の回りの世話	なし
男性	20～29歳	158	13.3	14.6	22.2	32.3	52.5	12.0	32.9	36.1	21.5	7.6
	30～39歳	612	17.5	16.3	13.4	21.6	51.8	24.3	28.6	40.2	28.8	14.4
	40～49歳	483	24.2	8.9	9.9	13.3	46.8	25.5	26.5	35.4	28.0	15.7
女性	20～29歳	239	50.6	32.2	41.8	30.1	49.8	9.2	31.0	35.6	38.5	7.9
	30～39歳	808	69.6	30.6	32.4	18.9	47.3	15.3	27.5	46.8	48.3	5.7
	40～49歳	520	65.0	21.7	22.1	10.8	40.0	15.6	22.9	38.5	38.7	14.2

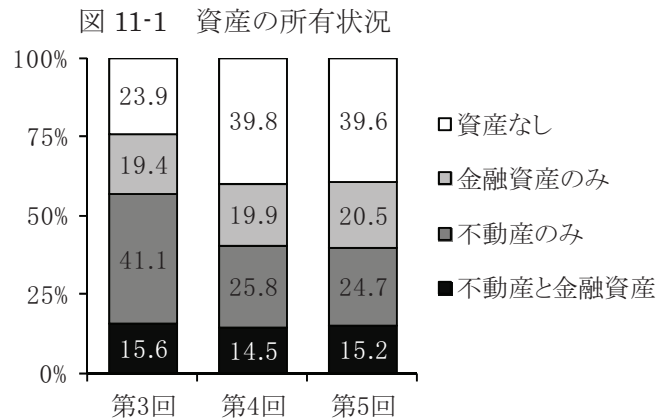
注) 子の年齢が20～49歳について集計。同居と別居の区分は、第5回調査の間10(4)で同じ建物内を同居とし、それ以外を別居とした。

11 章. 資産の所有状況と子への継承

(山内昌和)

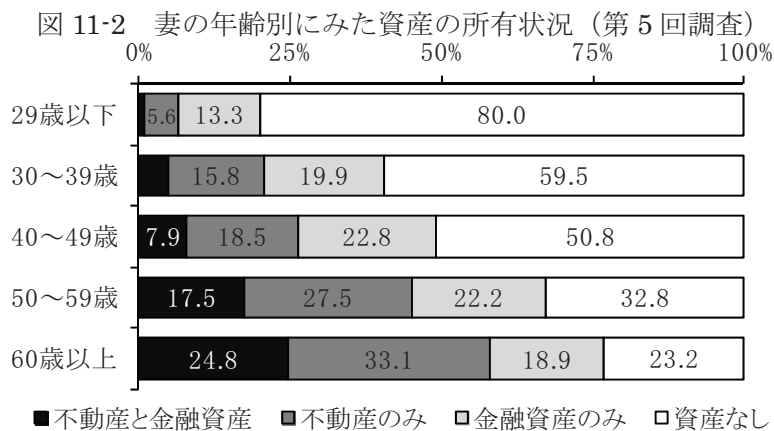
1. 資産所有

妻の資産の所有状況¹を整理したのが図 11-1 である。第 3 回調査の結果は相対的に「不動産のみ」の割合が高く「資産なし」の割合が低いが、第 4 回調査と第 5 回調査の結果はかなり類似している。第 5 回調査では、「不動産のみ」が 24.7%、「金融資産のみ」が 20.5%、「不動産と金融資産」が 15.2%であり、これらを合わせた 60.4%が何らかの資産を所有するのに対して、資産を所有していない「資産なし」が 39.6%であった。



注) 四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

第 5 回調査について妻の年齢別に資産の所有状況をみると (図 11-2)、年齢が上がるにつれて「資産なし」の割合が低下し、何らかの資産を所有する人の割合が上昇する。何らかの資産を所有する人は「29 歳以下」で 20.0%と低いが、「30～39 歳」で 40.5%、「40～49 歳」で 49.2%、「50～59 歳」で 67.2%、「60 歳以上」で 76.8%となる。所有する資産のうち、年齢による変化が大きいのは「不動産のみ」であり、「29 歳以下」の 5.6%に対して「60 歳以上」では 33.1%となり、これに「不動産と金融資産」を合わせると「60 歳以上」の 57.9%が不動産を所有する。



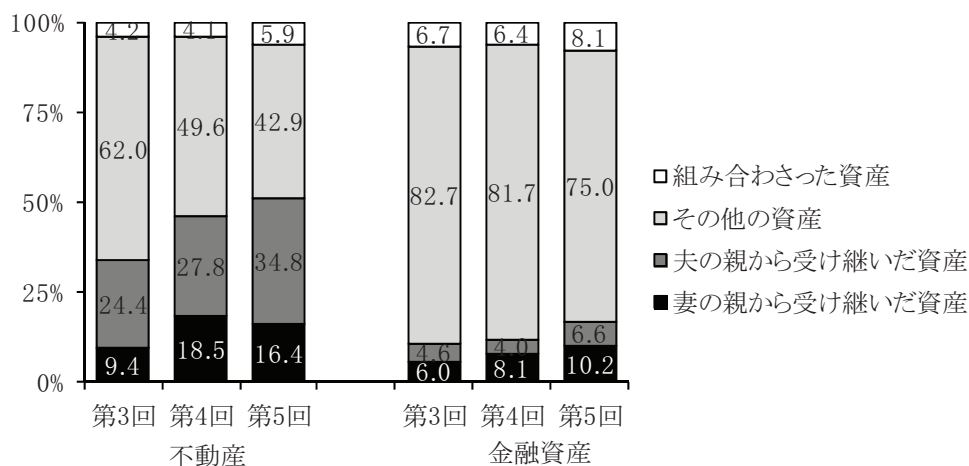
注) 四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

¹ 資産の所有は第 2 回調査から尋ねているが、第 2 回調査では資産を所有していないのか無回答 (いわゆる不詳) かを区別できないため、ここでは第 3 回調査以降を取り上げた。

所有している不動産と金融資産について、親から継承したのかどうかを示したのが図11-3である。不動産の場合、親から継承したものではない「その他の資産」の割合がもっとも高く、次いで「夫の親から受け継いだ資産」、「妻の親から受け継いだ資産」の順であり、いずれか複数当てはまる「組み合わせた資産」がもっとも少ない。第3回調査以降の変化をみると、「その他の資産」の割合が低下する一方、「夫の親から受け継いだ資産」は上昇する傾向にある。

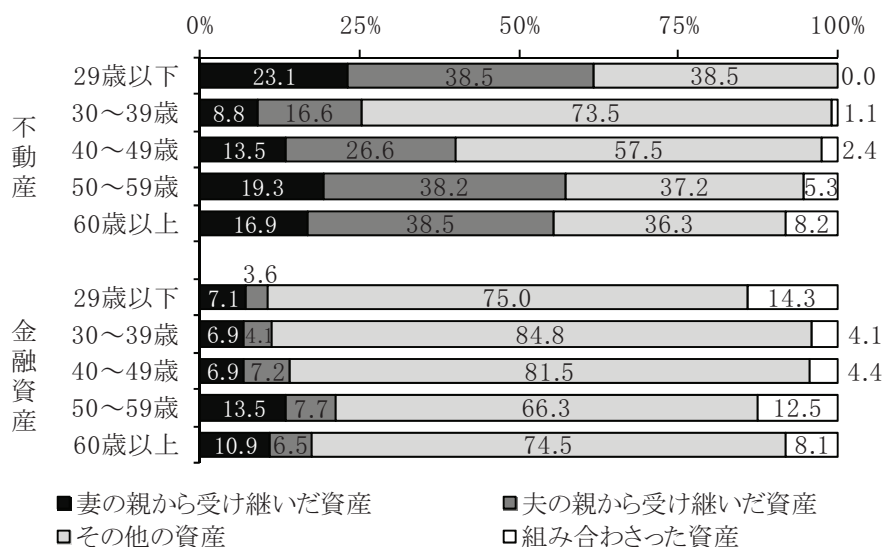
金融資産の場合、不動産とはやや異なる特徴がみられる。金融資産の場合、第3回調査以降は僅かに低下するものの「その他の資産」の割合がもっとも高く、その水準は不動産に比べて顕著に高い。それに次ぐのが「妻の親から受け継いだ資産」であり、不動産とは対照的に「夫の親から受け継いだ資産」の割合を上回る。

図 11-3 調査回別にみた不動産と金融資産の内訳



注) 組み合わせた資産とは、妻の親から受け継いだ資産、夫の親から受け継いだ資産、その他の資産のうち複数に該当する資産のこと。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図 11-4 妻の年齢別にみた不動産と金融資産の内訳 (第5回調査)



注) 組み合わせた資産とは、妻の親から受け継いだ資産、夫の親から受け継いだ資産、その他の資産のうち複数に該当する資産のこと。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

第5回調査について、妻の年齢別に所有する不動産と金融資産を親から継承したものかどうかをみたのが図 11-4 である。不動産の場合、ケース数の少ない 29 歳以下を除くと、年齢が上がるにつれ「その他の資産」の割合が低下し、「夫の親から受け継いだ資産」や「妻の親から受け継いだ資産」、「組み合わさった資産」の割合が上昇する傾向にある。金融資産の場合、不動産と類似したような年齢との関係は弱く、「その他の資産」の割合がいずれの年齢でも一貫して 6 割以上を占める。

2. 住宅の種類

住宅の種類に関する結果を整理したのが表 11-1 である。「親の援助のある住宅」の割合は第1回調査の 36.9%から上昇して第5回調査では 49.2%であった。「親の援助のある住宅」の中で割合が大きいのは「夫の親の家」、「夫親の土地に建てた自分たちの家」、「親の援助で取得した自分たちの家」である。それぞれ調査回ごとに増減はみられるが、いずれも 10%前後である。

それに対し「親の援助の無い住宅」の割合は次第に低下し、第5回調査では 44.1%であった。このうちもっとも多いのが「親の援助なしで取得した自分たちの家」で全体の 30%を超えるが、第2回調査以降は低下傾向にある。

第5回調査について妻の年齢別に整理したのが表 11-2 である。「29歳以下」から「50~59歳」にかけては年齢が上がるにつれ「親の援助の無い住宅」の割合が低下し、その一方で「親の援助のある住宅」の割合が上昇する。とくに変化が目立つのは「親の援助がない賃貸住宅」の割合であり、「29歳以下」の 47.2%に対して「50~59歳」では 7.5%である。

表 11-1 調査回別にみた住宅の種類

(%)

調査回	ケース数	親の援助のある住宅						親の援助の無い住宅			その他	
		妻の親の家	夫の親の家	妻親の土地に建てた自分たちの家	夫親の土地に建てた自分たちの家	親の援助で取得した自分たちの家	親の援助がある賃貸住宅	親の援助なしで取得した自分たちの家	親の援助がない賃貸住宅			
第1回	5,902	36.9	4.9	12.9	3.2	7.3	8.1	0.5	55.4	34.0	21.5	7.7
第2回	6,569	37.1	3.6	9.6	4.1	7.7	11.3	0.7	55.3	36.2	19.1	7.7
第3回	6,793	42.9	4.9	13.8	3.3	10.7	9.6	0.6	49.9	32.4	17.5	7.2
第4回	6,480	43.1	6.2	11.4	5.3	9.7	9.9	0.6	49.1	31.5	17.6	7.8
第5回	6,023	49.2	7.1	15.5	5.1	10.8	10.2	0.5	44.1	31.0	13.1	6.7

注) 四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

表 11-2 妻の年齢別にみた住宅の種類 (第5回調査)

(%)

妻の年齢	ケース数	親の援助のある住宅						親の援助の無い住宅			その他	
		妻の親の家	夫の親の家	妻親の土地に建てた自分たちの家	夫親の土地に建てた自分たちの家	親の援助で取得した自分たちの家	親の援助がある賃貸住宅	親の援助なしで取得した自分たちの家	親の援助がない賃貸住宅			
29歳以下	218	40.4	12.4	15.1	0.9	2.8	6.0	3.2	55.5	8.3	47.2	4.1
30~39歳	939	42.7	6.8	15.0	3.5	4.8	11.7	0.9	51.2	24.1	27.2	6.1
40~49歳	1,365	52.9	7.8	16.9	4.5	9.1	13.8	0.7	41.3	26.4	14.9	5.8
50~59歳	1,328	56.6	8.5	18.3	6.3	12.4	10.8	0.2	36.7	29.1	7.5	6.7
60歳以上	2,173	45.9	5.3	13.0	5.8	14.3	7.3	0.1	46.2	40.4	5.8	7.9

注) 四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

第5回調査について親との同別居別に整理すると（表 11-3）、住宅の種類は同居と別居では大きく異なっている。同居の場合、「親の援助のある住宅」の割合が 86.2%と高い。とりわけ「夫の親の家」と「妻の親の家」の割合は高く、両者を合わせると 60.9%となる。それに対して別居の場合、「親の援助の無い住宅」の割合は 54.3%と過半数を超える。

表 11-3 親との同居・別居別にみた住宅の種類（第5回調査）

(%)

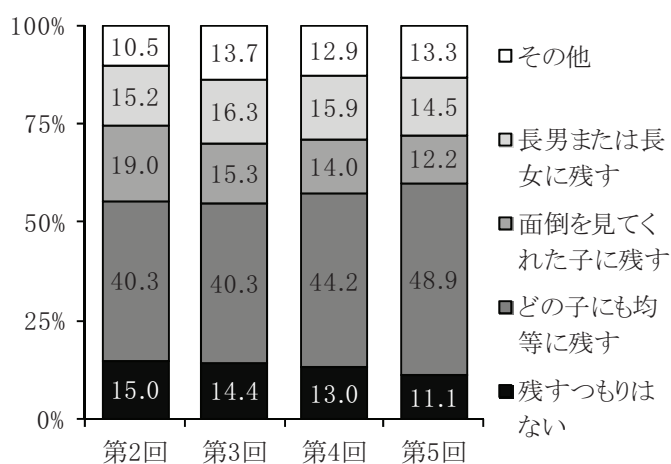
同別居	ケース数	親の援助のある住宅							親の援助の無い住宅			その他
		妻の親の家	夫の親の家	妻親の土地に建てた自分たちの家	夫親の土地に建てた自分たちの家	親の援助で取得した自分たちの家	親の援助がある賃貸住宅	親の援助なしで取得した自分たちの家	親の援助がない賃貸住宅			
同居	1,181	86.2	19.8	41.1	6.5	13.3	5.2	0.3	8.5	7.2	1.3	5.3
別居	3,019	38.9	3.4	7.9	4.5	8.3	14.1	0.7	55.4	34.4	20.9	5.7

注) 別居として集計したのは、同居親のいないケースのうち、親が全て亡くなっている場合や亡くなった親以外の親の生死が全て不詳の場合を除くケースである。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

3. 資産の継承に対する考え方

資産継承についての妻の考え方を整理したのが図 11-5 である。もっとも多いのは「どの子にも均等に残す」であり、それ以外の「残すつもりはない」や「面倒をみてくれた子に残す」、「長男または長女に残す」、「その他」はいずれも 10 数%でほぼ同水準である。第2回調査以降の変化をみると、「どの子にも均等に残す」の割合は増える傾向にあり、第2回調査の 40.3%から第5回調査では 48.9%へ 8.6 ポイント上昇した。それに対して「その他」を除く 3 項目はいずれも減る傾向にあり、なかでも「面倒をみてくれた子に残す」は第2回調査の 19.0%から第5回調査の 12.2%へ 6.8 ポイント低下した。

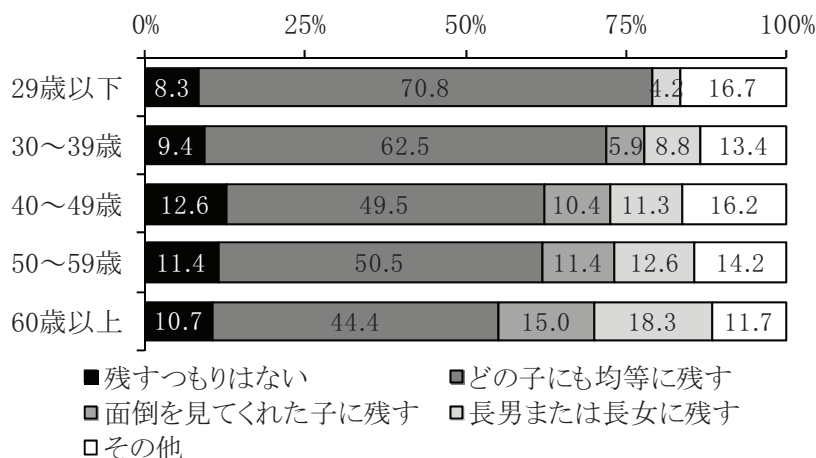
図 11-5 調査回別にみた妻の資産継承に対する考え方



注) 子ども数が 1 人以上で資産を所有するケースについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

第5回調査について妻の年齢別にみると（図11-6）、「どの子にも均等に残す」の割合は年齢が若いほど高く、「残すつもりはない」や「面倒をみてくれた子に残す」、「長男または長女に残す」の割合は高齢者の方が高い傾向にある。

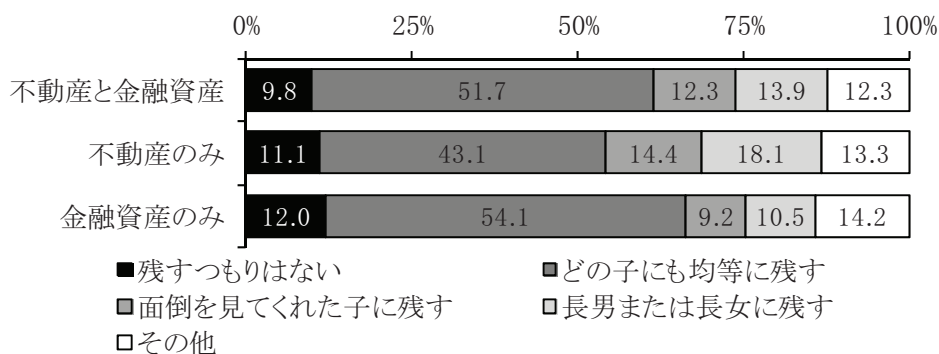
図11-6 妻の年齢別にみた妻の資産継承に対する考え方（第5回調査）



注) 子ども数が1人以上で資産を所有するケースについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

第5回調査について所有する資産の種類別にみると（図11-7）、「どの子にも均等に残す」が最も高い割合を示す。ただし「不動産のみ」の場合、「金融資産のみ」と「不動産と金融資産」に比べて「どの子にも均等に残す」の割合が43.1%とやや低い反面、「面倒をみてくれた子に残す」や「長男または長女に残す」の割合がやや高いという傾向がみられる。

図11-7 資産の種類別にみた妻の資産継承に対する考え方（第5回調査）



注) 子ども数が1人以上で資産を所有するケースについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

<参考資料>

図11-1 資産の所有状況 (%)

調査回	ケース数	不動産と金融資産	不動産のみ	金融資産のみ	資産なし
第3回	5,911	15.6	41.1	19.4	23.9
第4回	5,815	14.5	25.8	19.9	39.8
第5回	5,444	15.2	24.7	20.5	39.6

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図11-2 妻の年齢別にみた資産の所有状況(第5回調査) (%)

妻の年齢	ケース数	不動産と金融資産	不動産のみ	金融資産のみ	資産なし
29歳以下	195	1.0	5.6	13.3	80.0
30-39歳	876	4.9	15.8	19.9	59.5
40-49歳	1,267	7.9	18.5	22.8	50.8
50-59歳	1,211	17.5	27.5	22.2	32.8
60歳以上	1,895	24.8	33.1	18.9	23.2

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図11-3 調査回別にみた不動産と金融資産の内訳 (%)

資産の種類	調査回	ケース数	妻の親から受け継いだ資産	夫の親から受け継いだ資産	その他の資産	組み合わせた資産
不動産	第3回	3,353	9.4	24.4	62.0	4.2
	第4回	2,347	18.5	27.8	49.6	4.1
	第5回	2,171	16.4	34.8	42.9	5.9
金融資産	第3回	2,068	6.0	4.6	82.7	6.7
	第4回	2,000	8.1	4.0	81.7	6.4
	第5回	1,943	10.2	6.6	75.0	8.1

注) 組み合わせた資産とは、妻の親から受け継いだ資産、夫の親から受け継いだ資産、その他の資産のうちの複数に該当する資産のこと。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図11-4 妻の年齢別にみた不動産と金融資産の内訳(第5回調査) (%)

資産の種類	妻の年齢	ケース数	妻の親から受け継いだ資産	夫の親から受け継いだ資産	その他の資産	組み合わせた資産
不動産	29歳以下	13	23.1	38.5	38.5	0.0
	30-39歳	181	8.8	16.6	73.5	1.1
	40-49歳	334	13.5	26.6	57.5	2.4
	50-59歳	545	19.3	38.2	37.2	5.3
	60歳以上	1,098	16.9	38.5	36.3	8.2
金融資産	29歳以下	28	7.1	3.6	75.0	14.3
	30-39歳	217	6.9	4.1	84.8	4.1
	40-49歳	389	6.9	7.2	81.5	4.4
	50-59歳	481	13.5	7.7	66.3	12.5
	60歳以上	828	10.9	6.5	74.5	8.1

注) 組み合わせた資産とは、妻の親から受け継いだ資産、夫の親から受け継いだ資産、その他の資産のうちの複数に該当する資産のこと。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図11-5 調査回別にみた妻の資産継承に対する考え方 (%)

調査回	ケース数	残すつもりはない	どの子にも均等に残す	面倒を見てくれた子に残す	長男または長女に残す	その他
第2回	2,505	15.0	40.3	19.0	15.2	10.5
第3回	3,286	14.4	40.3	15.3	16.3	13.7
第4回	3,125	13.0	44.2	14.0	15.9	12.9
第5回	2,940	11.1	48.9	12.2	14.5	13.3

注) 子ども数が1人以上で資産を所有するケースについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図11-6 妻の年齢別にみた妻の資産継承に対する考え方(第5回調査) (%)

妻の年齢	ケース数	残すつもりはない	どの子にも均等に残す	面倒を見てくれた子に残す	長男または長女に残す	その他
29歳以下	24	8.3	70.8	0.0	4.2	16.7
30～39歳	307	9.4	62.5	5.9	8.8	13.4
40～49歳	531	12.6	49.5	10.4	11.3	16.2
50～59歳	739	11.4	50.5	11.4	12.6	14.2
60歳以上	1,339	10.7	44.4	15.0	18.3	11.7

注) 子ども数が1人以上で資産を所有するケースについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図11-7 資産の種類別にみた妻の資産継承に対する考え方(第5回調査) (%)

資産の種類	ケース数	残すつもりはない	どの子にも均等に残す	面倒を見てくれた子に残す	長男または長女に残す	その他
不動産と金融資産	756	9.8	51.7	12.3	13.9	12.3
不動産のみ	1,218	11.1	43.1	14.4	18.1	13.3
金融資産のみ	966	12.0	54.1	9.2	10.5	14.2

注) 子ども数が1人以上で資産を所有するケースについて集計。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

12章. 親の介護と家族の役割

(小山泰代)

平均寿命の伸長や、少子化や世帯の小規模化の進展によって、育児とともに、親の介護は、今後、家族や社会にとって重要性を増すと考えられる。ここでは、有配偶女性（妻）からみた親の介護の状況や、介護と就労との関係を概観する。

1. 親の健康状態

(1)親の生死と介護の要否

はじめに、調査対象となった有配偶女性（妻）全体について、夫婦の両親がそれぞれどのような状況にあるかをみてる（表12-1）。今回の調査では、親の介護に関する設問の形式や選択肢がこれまでと異なるため、時系列での厳密な比較はできないが、表には参考に第4回の結果を示した。

今回の調査では、父親についてはおおむね3～4割、母親についてはおおむね5～6割が生存している。また、介護の必要な親は、妻方では父親で7.4%、母親で15.4%、夫方では父親で5.2%、母親で11.7%となっている。

表12-1 親の生存状況と介護の要否

状態	妻の父親		妻の母親		夫の父親		夫の母親	
	第5回	第4回	第5回	第4回	第5回	第4回	第5回	第4回
ケース数	6,409	6,870	6,409	6,870	6,409	6,870	6,409	6,870
生存	39.7 %	41.4 %	57.9 %	59.3 %	33.9 %	34.3 %	51.0 %	51.5 %
介護不要	30.2	34.5	39.5	45.6	26.3	28.4	35.4	39.3
介護必要	7.4	5.3	15.4	11.2	5.2	4.1	11.7	9.6
不詳	2.1	1.6	3.1	2.5	2.3	1.8	3.9	2.6
死亡等	50.6	45.5	33.5	28.5	51.3	47.1	36.0	31.2
不詳	9.7	13.2	8.6	12.2	14.9	18.6	13.0	17.3

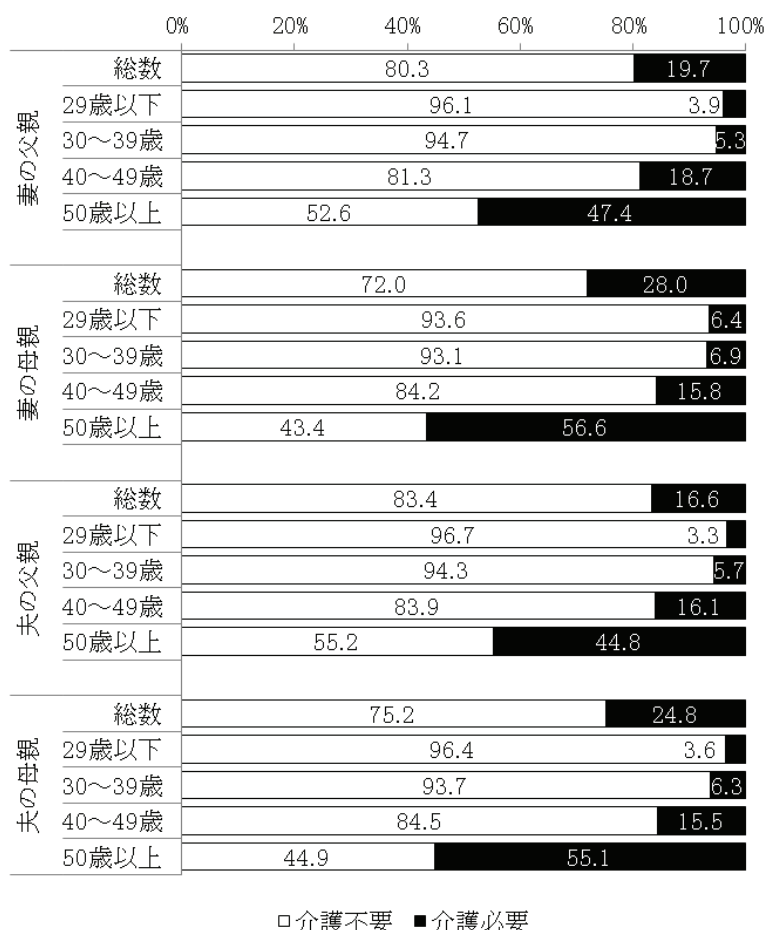
注) 第5回調査については日常生活に必要な手助けや見守りの程度を尋ねた問 13(1)の「必要ない」を介護不要、「ときどき必要」と「一日中必要」を介護必要、「わからない」と無回答を不詳とした。第4回調査について日常生活に手助けが必要かどうかを尋ねた問 8(3)で「必要ない」を介護不要、「一部に手助けが必要」と「全般的に手助けが必要」を介護必要、無回答を不詳とした。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

さらに、親の介護の要否について、生存している親を対象に、妻の年齢別にみると（図12-1）、いずれの親についても、30～39歳までは9割以上が介護不要であるが、40～49歳になると、介護不要の割合は8割強に縮小し、親の15.5%～18.7%に介護が必要な状況となっている（介護の要否不詳を除く割合）。さらに50歳以上では、介護の不要な親の割合は43.4%～55.2%、他方、介護の必要な親の割合は44.8%～56.6%と、親における介護の要否の割合は拮抗している。また、妻方、夫方のいずれにおいても、介護の必要な割合は、父親よりも母親のほうが10%ポイントほど高くなっている。

親の介護は、妻が40歳代の頃から顕在化し、50歳以上では、いずれの親もおよそ半数に

介護が必要で、さらに言えば、父親よりも母親において介護の必要な割合が大きいことが分かる。

図12-1 妻の年齢別にみた生存している親における介護の要否の割合（第5回調査）



注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

(2) 介護の必要な親の数

介護の必要な親がいる妻の割合および介護の必要な親の数を、妻の年齢別にみたものを表12-2に示す。全体では、介護の必要な親がいる割合は28.7%で、介護が必要な親の数の内訳を見ると、このうち19.8%は1人、7.1%は2人、1.5%は3人、0.3%は4人で、8.9%は2人以上の親に介護が必要な状況である。

介護の必要な親がいる割合を年齢別に見ると（図12-2）、29歳以下の12.4%から年齢が上がるとともに拡大し、50～59歳で51.7%ともっとも高くなっている。50～59歳では、このうち約3分の1にあたる16.1%は親2人に介護が必要で、これを含め2人以上の親に介護が必要な妻の割合は20.9%となっている。また、60～69歳でも、介護が必要な親がいる妻の割合は29.3%と約3割を占め、40～49歳の33.8%に次ぐ水準である。介護の必要な親が2人以上

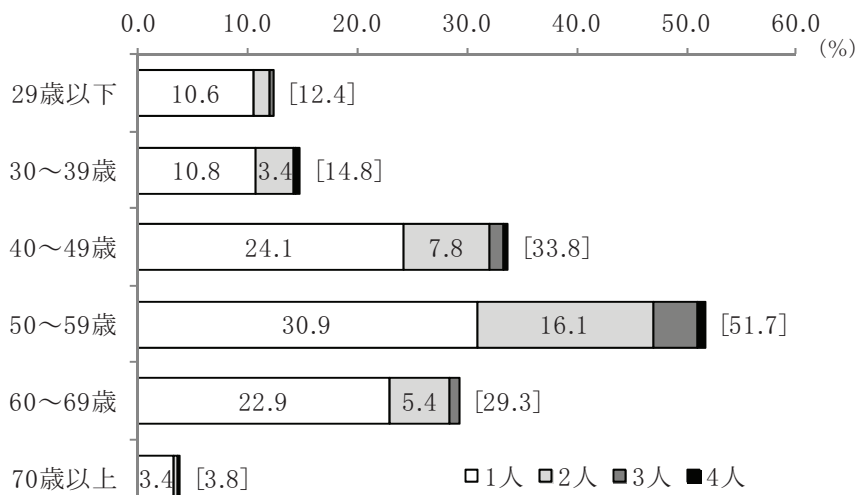
いる割合も、最大の50～59歳に続き、40～49歳で9.6%、60～69歳で6.4%と50～59歳を中心に高い水準となっている。先にも述べたが、妻にとって親の介護は、40歳代から始まり、50歳代が本格的に直面する時期で、60歳代という自身の高齢期に入っても関わり続ける家族の課題であるといえよう。

表12-2 妻の年齢別にみた介護の必要な親の人数の割合

妻の年齢	ケース数	介護が必要な親がいる妻の割合				
		介護が必要な親の人数				
		1人	2人	3人	4人	
年齢計	6,409	28.7 %	19.8 %	7.1 %	1.5 %	0.3 %
29歳以下	226	12.4	10.6	1.3	0.4	0.0
30～39歳	971	14.8	10.8	3.4	0.2	0.4
40～49歳	1,404	33.8	24.1	7.8	1.4	0.4
50～59歳	1,406	51.7	30.9	16.1	4.1	0.7
60～69歳	1,478	29.3	22.9	5.4	0.9	0.0
70歳以上	924	3.8	3.4	0.3	0.1	0.0

注) ケース数には、介護が必要かどうか分からない親を持つ妻も含む。

図12-2 妻の年齢別にみた介護の必要な親のいる妻の割合



注) []内の数値は介護が必要な親のいる妻の割合。割合を算出する際の分母には介護が必要かどうか分からない親を持つ妻も含む。

(3) 介護の必要な親の居住世帯

介護の必要な親について、その居住世帯の状況をみている (表12-3)。いずれの親の場合にも、41.3%～50.0%は子 (配偶関係を問わない) と同居している。結婚している子 (妻を

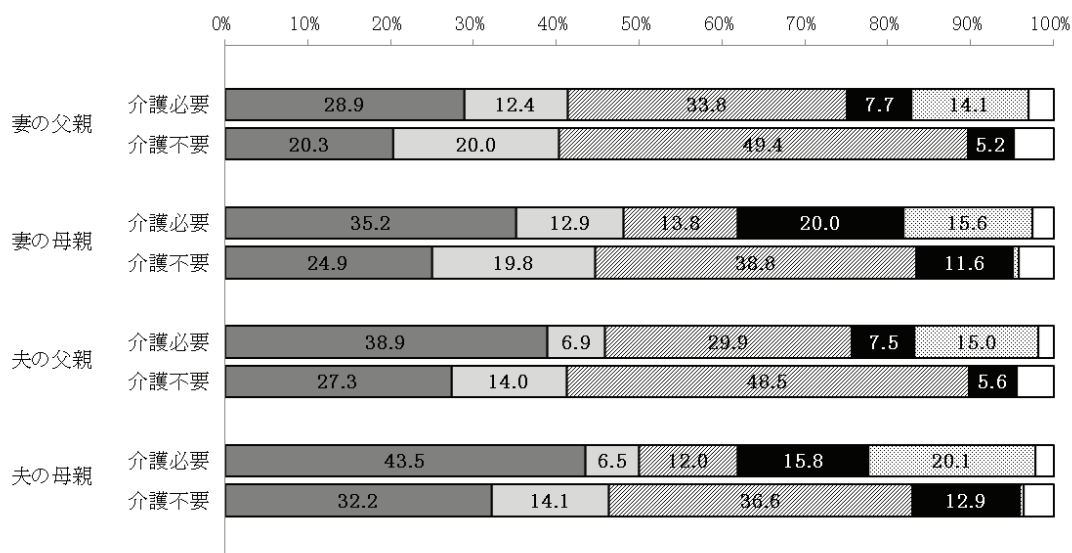
含む) と同居している者は28.9%~43.5%で、妻の親では3割前後、夫の親では4割前後となっている。他方、結婚していない子と同居しているのは6.5%~12.9%で、妻の親で12%強、夫の親で6%強である。介護の必要な親が父親の場合には3割程度が夫婦ふたり暮らしであるのに対して、母親の場合には1割強と低い。また、ひとり暮らしの割合は、夫婦ふたり暮らしとは逆に、父親が7%程度であるのに対して、母親では15.8%~20.0%とより高い。

表12-3 介護の必要な親の居住状態

	ケース数	居住状態			夫婦ふたり暮らし	ひとり暮らし	入院・入所中	その他
		子(子夫婦)と同居	結婚している子と同居	結婚していない子と同居				
妻の父親	467	41.3 %	28.9 %	12.4 %	33.8 %	7.7 %	14.1 %	3.0 %
妻の母親	969	48.1	35.2	12.9	13.8	20.0	15.6	2.5
夫の父親	334	45.8	38.9	6.9	29.9	7.5	15.0	1.8
夫の母親	736	50.0	43.5	6.5	12.0	15.8	20.1	2.2

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-3 介護の要・不要別にみた親の居住状態



■結婚している子と同居 □結婚していない子と同居 ▣夫婦ふたり暮らし ■ひとり暮らし □入院・入所 □その他

介護の要・不要の別に親の居住状態をみると(図12-3)、介護の必要な親は病院や施設に入所している者が1~2割いるため、それ以外のカテゴリーの割合は介護が不要な親よりも小さくなりやすいが、結婚している子と同居する割合、および、ひとり暮らしの割合は、

介護の必要な親の方が不要な親よりも大きい。その差は、結婚している子と同居する割合は約9～12ポイント、ひとり暮らしの割合は約2～8ポイントである。ひとり暮らしの割合については、とくに妻の母親において、介護が必要な場合の割合が介護が不要の場合よりも約8ポイント高く、他の親（約2から3ポイント差）よりも大きな差となっている。また、夫婦ふたり暮らしの割合は介護の要・不要による差が大きく、父親では両者の差はおおむね15～18ポイント、母親では約25ポイントとより高い。これらの背景には、親の年齢（介護の必要な親は年齢の高い者が相対的に多い）や親夫婦の年齢差（父親の方が年上である場合が多い）によって、母親が要介護となる頃には父親とは死別している可能性があることや、家庭内介護の点から、母親に介護が必要になった場合には、父親が要介護状態となった場合よりも夫婦ふたり暮らしを継続することが困難であることなどが考えられる。

今回の調査では、介護の必要な親（特に母親）は子夫婦と同居する者が多いが、結婚していない子と同居する者も少なくない。また、父親に介護が必要な場合には、3割ほどが夫婦ふたり暮らしで、この場合には母親が父親を介護する老老介護の状況がうかがえる。さらに、介護の必要な親がひとり暮らしでいるケースも少なくなく、特に母親の場合には、2割弱がひとり暮らしである。こうしたことから、家庭内での介護者の確保の困難さや、家庭内介護における家族の負担がより大きいケースが一定数存在することが読み取れる。

2. 家族介護への妻の参加状況

(1)親の介護における妻の役割

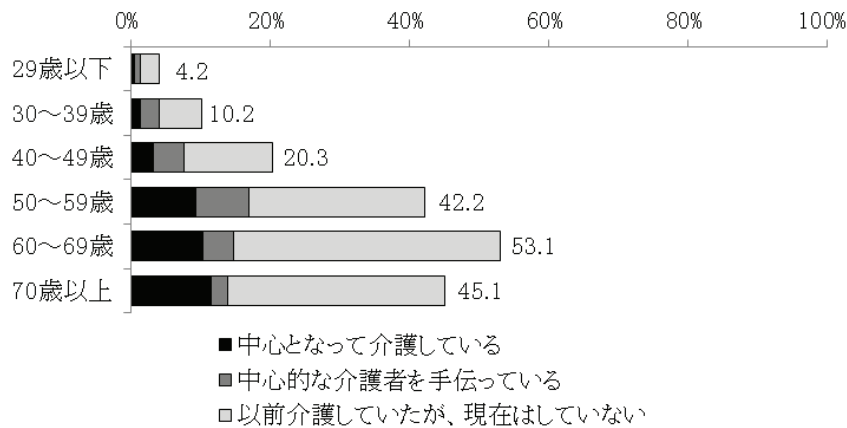
次に、妻がどのように親の介護に関わっているかをみていく。今回の調査では、妻と介護の関わりについて、親の介護に限定せず、まず「現在、あなたはご家族のどなたかを介護していますか」（問14）として尋ねている。回答の選択肢は「1.中心となって介護している」「2.中心的な介護者を手伝っている」「3.以前に介護をしていたが、現在はしていない」「4.家族の介護をしたことはない」で、ここでは、前2者を合わせたものを、現在介護に参加している（現在介護している）とする。また、1に該当する者を「中心的介護者」、2に該当する者を「手伝い」と呼ぶ。

表12-4 妻の年齢別にみた家族の介護への参加状況

妻の年齢	ケース数	介護に参加している	介護に参加している		介護経験あり	介護経験なし
			中心的介護者	手伝い		
年齢計	5,685	11.3 %	6.8 %	4.5 %	22.0 %	66.7 %
29歳以下	215	1.4	0.5	0.9	2.8	95.8
30～39歳	918	4.1	1.4	2.7	6.1	89.8
40～49歳	1,309	7.7	3.3	4.4	12.6	79.7
50～59歳	1,289	17.0	9.4	7.6	25.2	57.8
60～69歳	1,262	14.8	10.4	4.4	38.3	46.9
70歳以上	692	13.9	11.6	2.3	31.2	54.9

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-4 妻の年齢別にみた介護経験のある妻の割合



注) 図中の数値は、「中心となって介護している」、「中心的な介護者を手伝っている」、「以前介護していたが、現在はしていない」の割合を合計したものを表す。

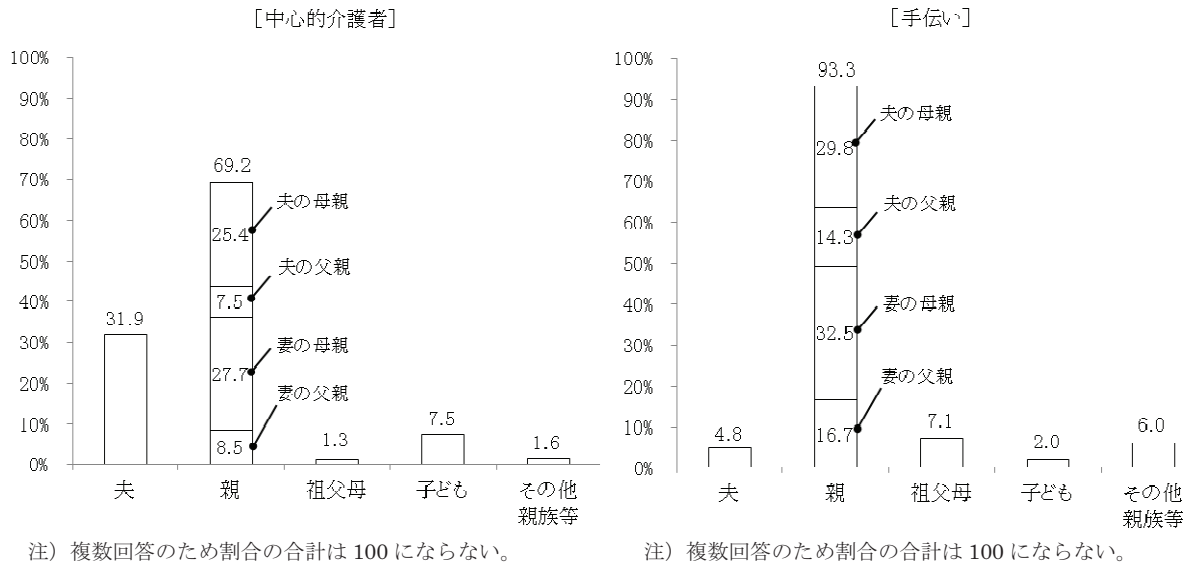
表12-4によれば、妻のうち、現在介護に参加している者は11.3%で、内訳は中心的介護者が6.8%、手伝いが4.5%である。このほか、過去に介護経験のある者は22.0%で、現在と過去を合わせると3割強が家族の介護の経験をもつことになる。

年齢別にみると（表12-4、図12-4）、現在介護している者の割合は50~59歳が17.0%でピークとなっており、過去の介護経験については60~69歳が38.3%でもっとも高い。この結果は、先に見た、親の介護の要・不要の状況にも呼応している。現在介護しているものにおいては、中心的介護者である割合は年齢が高くなるとともに上昇し、手伝いは50~59歳をピークとする山を描いている。この50~59歳以降、中心的介護者である割合が手伝いである割合を上回っており、妻の家族介護における中心的役割が次第に大きくなっていく様子が見えてくる。

次に、現在介護をしている者について、介護の状況をみていこう。現在介護に関わる妻が誰の介護をしているかを図12-5に示す。なお、今回の調査では、妻が介護している家族について、「夫」「あなたの父親」「あなたの母親」「夫の父親」「夫の母親」等、妻との続柄を選択肢とする複数回答で尋ねている。

妻が中心的介護者である場合には、親を介護している者の割合が69.2%でもっとも高く、次いで夫を介護する者の割合が31.9%である。妻が介護する親の内訳をみると、妻方、夫方とも、父親が8%前後であるのに対して母親は25%以上と高い割合を示している。手伝いである場合は、親を介護する者の割合は93.3%と中心的介護者の場合よりも高く、それ以外の家族はいずれも10%に満たない。父親に介護が必要になった場合には、母親が中心的介護者となるケースが多いことや、母親に介護が必要になったときには、父親とは死別していたり、父親も要介護状態であったりといったことから、その子が中心的介護者となるケースが多いという、我が国の家族介護における慣行が現れている。

図12-5 妻が介護している家族の続柄



妻が介護している家族の人数を集計したものを表12-5に示す。中心的介護者についても、手伝いについても、現在家族を介護している妻の9割近くは1人の家族を介護している。親の介護という点からみると、このうち親1人のみを介護しているという者は、中心的介護者では49.7%、手伝いでは69.8%と、手伝いの場合により高い割合となっている。先に見たように、この差は、おもに夫の中心的介護者である妻が相対的に多いことによる。2人以上を介護している妻は、中心的介護者で10.6%、手伝いで13.1%となり、これらについては、すべて1人以上の親を介護しており、さらに言えば、親2人を介護しているケースがほとんどである。中心的介護者として、あるいはその手伝いとして、親の介護における妻（親から見れば娘またはいわゆる「嫁」）の役割は依然として大きいといえる。

表12-5 妻が介護している家族の数

妻が介護している家族の数	中心的介護者	手伝い
ケース数	386	252
1人	89.4 %	86.9 %
うち 親1人	49.7	69.8
2人以上	10.6	13.1
うち 親1人	1.8	2.8
親2人以上	8.5	10.3

注) 四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

(2)家族介護の頻度と時間

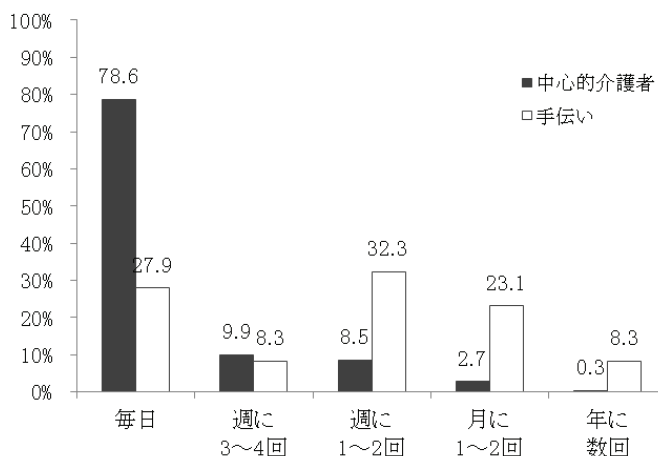
介護の頻度については（表12-6、図12-6）、中心的介護者では「毎日」が78.6%と4分の3以上を占め、「週に3～4回」が9.9%、「週に1～2回」が8.5%とそれぞれ1割弱という状況である。手伝いについては、もっとも多いのは「週に1～2回」の32.3%、以下「毎日」が27.9%、「月に1～2回」が23.1%と続いている。手伝いとしての介護参加には、いわば「ときどき手伝いに行く」ものと、「少しずつ毎日手伝う」ものとがあることが分かるが、それは介護を受ける者の要介護の程度や両者の居住地の関係などに関連するものと考えられる。

表12-6 介護の頻度

	中心的介護者	手伝い
ケース数	364	229
毎日	78.6 %	27.9 %
週に3～4回	9.9	8.3
週に1～2回	8.5	32.3
月に1～2回	2.7	23.1
年に数回	0.3	8.3

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-6 介護の頻度



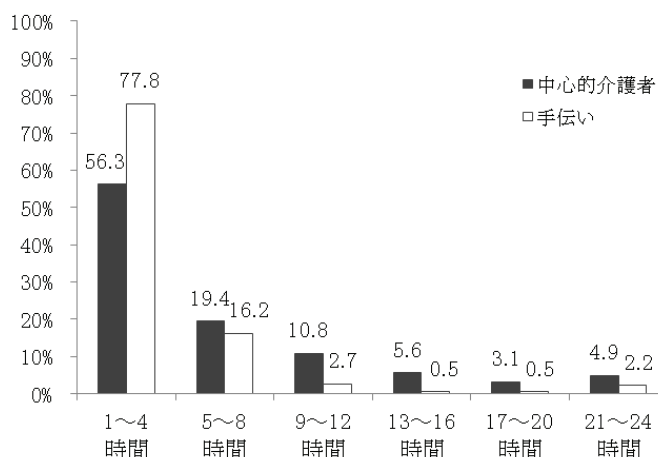
注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

表12-7 1日の介護時間

	中心的介護者	手伝い
ケース数	288	185
1～4時間	56.3 %	77.8 %
5～8時間	19.4	16.2
9～12時間	10.8	2.7
13～16時間	5.6	0.5
17～20時間	3.1	0.5
21～24時間	4.9	2.2
平均時間	6.3	3.6

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。平均時間の単位は時間である。

図12-7 1日の介護時間



注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

また、1日あたりの介護時間をみると（表12-7、図12-7）、中心的介護者、手伝いともに「1～4時間」がそれぞれ56.3%、77.8%ともっとも多く、長時間の介護ほど少ない傾向がみられる。ただし、もっとも長い「21～24時間」は、中心的介護者でも手伝いでも「17～20時間」よりもやや大きな割合を示している。「5～8時間」以降も、中心的介護者の方が手伝いよりも割合が大きく、手伝いでは9割強が8時間以内であるのに対して、中心的介護者で

は、「9～12時間」でも10.8%、「13～16時間」で5.6%と、相対的に長時間の割合が高い。1日あたり介護時間の平均は、中心的介護者で6.3時間、手伝いで3.6時間となり、中心的介護者の方が手伝いよりも3時間弱長い。

介護時間を介護頻度別にみると（表12-8）、中心的介護者は「毎日」かつ長時間（「9時間以上」）介護に費やす者が多く（29.5%）、1日の平均介護時間も7.0時間ともっとも長く、家族介護者、とりわけ中心的介護者の負担の大きいことがうかがえる。「週に3～4回」あるいは「週に1～2回」では、中心的介護者も手伝いも、平均介護時間は3時間台で「毎日」より短い、それら以下の頻度（「付きに1～2回」「年に数回」）では、平均介護時間は長くなる。手伝いにおいて、「年に数回」の平均介護時間ももっとも長いのは、中心的介護者の休息等のため、代理として介護を担当するケースなども含まれているものと考えられる。

表12-8 介護頻度別にみた介護時間

中心的介護者					
	毎日	週に 3～4回	週に 1～2回	月に 1～2回	年に 数回
ケース数	220	31	27	8	-
1～4時間	50.9 %	80.6 %	70.4 %	50.0 %	- %
5～8時間	19.5	12.9	25.9	25.0	-
9時間以上	29.5	6.5	3.7	25.0	-
平均時間	7.0	3.9	3.7	5.8	-

手伝い					
	毎日	週に 3～4回	週に 1～2回	月に 1～2回	年に 数回
ケース数	51	14	60	44	15
1～4時間	78.4 %	85.7 %	80.0 %	75.0 %	66.7 %
5～8時間	11.8	14.3	18.3	18.2	20.0
9時間以上	9.8	0.0	1.7	6.8	13.3
平均時間	4.1	3.1	3.0	3.8	4.6

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。平均時間の単位は時間である。

3. 介護と就労継続

(1) 介護と就労継続

今回の調査では、現在家族の介護に参加している者について、「現在の介護にかかわり始める直前、あなたはどのような仕事をしていましたか」「そのお仕事は現在も続けていますか」等の項目を設け、介護と仕事とのかかわりについて、介護開始時を中心に尋ねている。

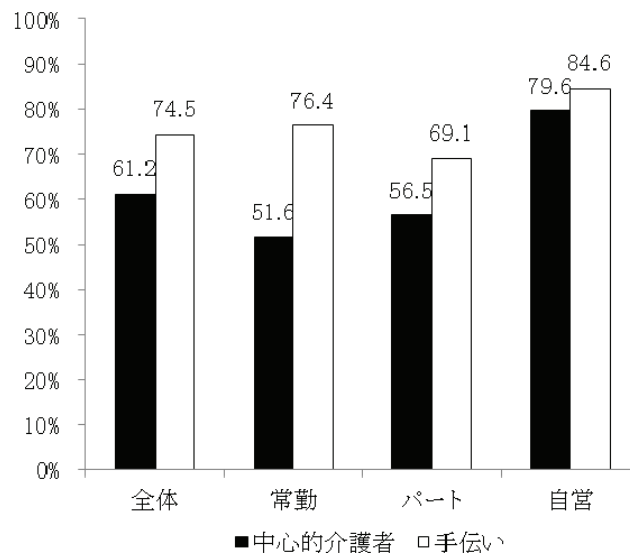
表12-9にあるように、介護開始直前に仕事をしていた者の割合は、中心的介護者では56.1%、手伝いでは64.4%である。両者の差は、仕事をしていない者が中心的介護者になりやすいということや、中心的介護者となっている妻の年齢が比較的高いといったことから生じているものと考えられる。

表 12-9 介護開始直前の妻の従業上の地位

		中心的介護者	手伝い
介護開始直前の 従業上の地位	ケース数	378	239
	働いていなかった	43.9 %	35.6 %
	働いていた	56.1	64.4
	常勤	16.9	23.4
	パート	23.3	29.3
	自営	15.9	11.7

注) パートには嘱託・派遣社員を、自営には家族従業者を含む。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

図12-8 妻の従業上の地位別、介護開始後に仕事を続けた妻の割合



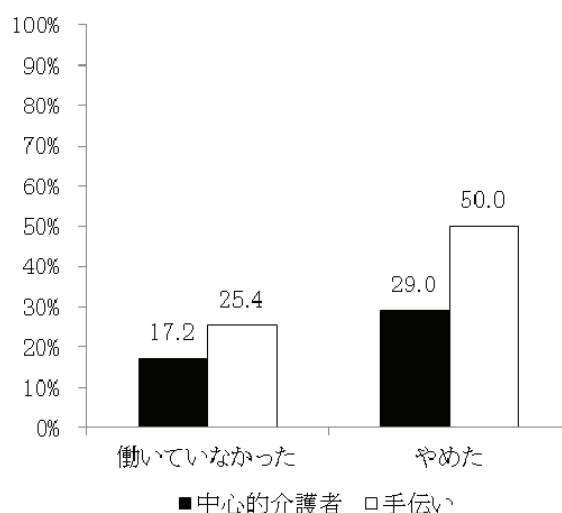
注) パートには嘱託・派遣社員を、自営には家族従業者を含む。四捨五入の関係で割合の合計が 100 にならない場合がある。

介護開始直前に働いていた者のうち、その仕事を現在も続けている者の割合は(図12-8)、中心的介護者では61.2%、手伝いでは74.5%で、言い換えれば、中心的介護者の場合には4割弱、手伝いの場合には4分の1が仕事をやめたことになる。介護開始直前にしていた仕事の従業上の地位別に見ると、中心的介護者では、続けた者の割合がもっとも高いのは「自営」で79.6%、次いで「パート」56.5%、「常勤」51.6%である。手伝いにおいても、もっとも高いのは「自営」の84.6%で、以下、「常勤」76.4%、「パート」69.1%となっている。「常勤」と「パート」は、中心的介護者と手伝いとで大小関係が逆転している。

なお、介護開始直前に仕事をしていなかった者および介護開始後に仕事をやめた者につ

いて、その後の就労状況をみると（図12-9）、その後新しい仕事についての割合は、働いていなかった者では、中心的介護者の場合17.2%、手伝いの場合25.4%であり、仕事をやめた者では、それぞれ29.0%、50.0%（ただし、手伝いの母数は26と少ない）である。

図12-9 介護開始後に新しい仕事についての割合



(2)仕事の継続に必要

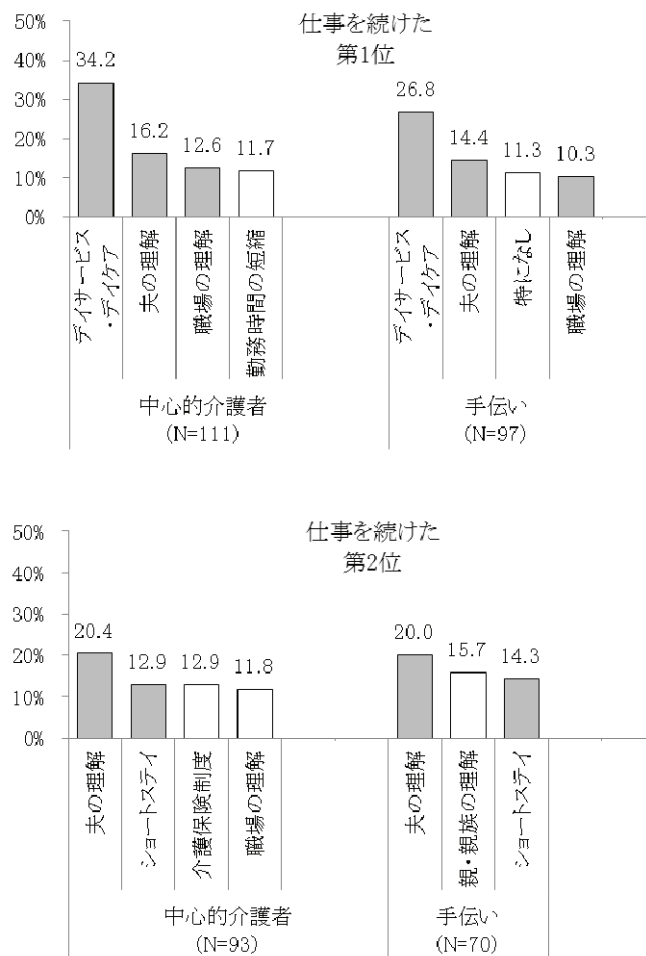
本調査では、介護と就労の関係に関連して、介護開始後に仕事を続けた者に、仕事を続ける上で役立った条件（第1位、第2位として、17の選択肢（「特になし」を含む）からそれぞれ1つずつ回答）を尋ねている。図12-10は、第1位、第2位のそれぞれについて、中心的介護者と手伝いの別に、選択された割合が10%以上となった選択肢を示したものである。

仕事を続ける上で役立った条件の第1位は、中心的介護者では「デイサービス・デイケア」が34.2%でもっとも多く、以下、「夫の理解」16.2%、「職場の理解」12.6%、「勤務時間の短縮」11.7%である。一方、手伝いでは、もっとも多いのは中心的介護者と同じ「デイサービス・デイケア」で26.8%、次いで「夫の理解」が14.4%で、「特になし」11.3%をはさんで、「職場の理解」10.3%と続いている。中心的介護者、手伝いとも、「特になし」をのぞくと上位3項目は「デイサービス・デイケア」、「夫の理解」、「職場の理解」の順となった。特に、「デイサービス・デイケア」は両者においてもっとも大きな割合を占めており、介護と仕事を両立する上での中での介護者の確保の重要性を示している。また、両者とも「夫の理解」や「職場の理解」の割合が相対的に高く、制度的な部分とは別に、周囲の理解といういわば情緒的な部分の関わりが小さくないといえる。

第2位に挙げられた条件は、中心的介護者では、「夫の理解」の20.4%がもっとも大きく、続いて「ショートステイ」と「介護保険」がともに12.9%、「職場の理解」11.8%である。手伝いにおいては、ケース数はやや少なくなるが、やはり「夫の理解」がもっとも大きく20.0%、以下、「親族の理解」15.7%、「ショートステイ」14.3%となった。ここでは中心的介護者と手伝いで「夫の理解」と「ショートステイ」が共通している。第2位に挙げられる

条件においても、「夫の理解」の占める割合は高く、加えて、「職場の理解」や「親族の理解」など、関係者の理解があることが就労の継続に不可欠であることが分かる。また、「ショートステイ」が挙げられる割合の高さからは、一時的な介護の代替も必要とされていることが分かる。

図12-10 仕事を続ける上で役にたった条件（10%以上の項目）

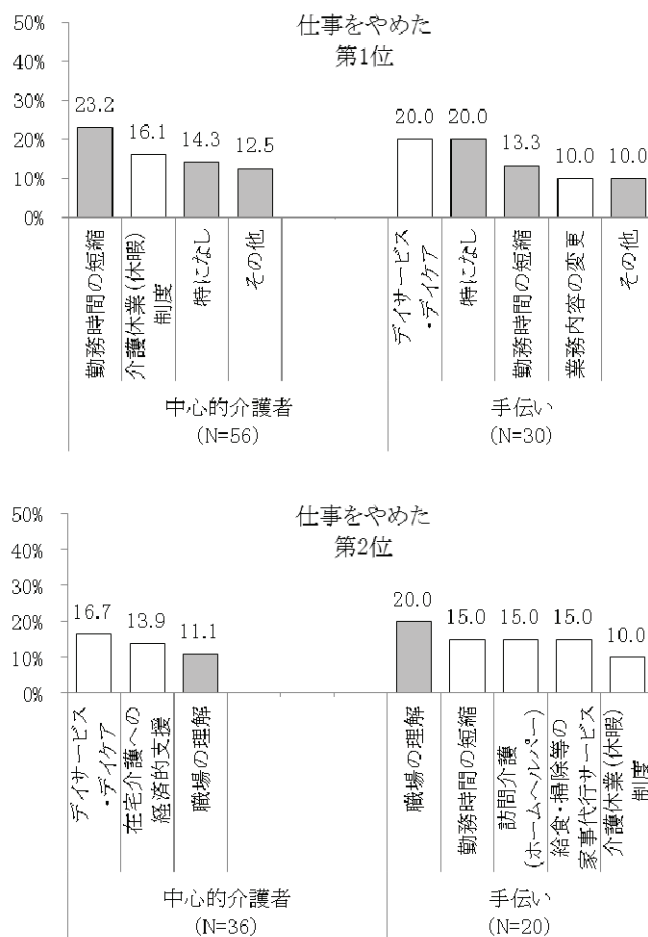


注) 網掛けは中心的介護者と手伝いの両方で10%以上の項目

本調査では、同様に、介護開始後に仕事をやめた者に対して、「どのような条件が整っていれば、介護に関わり始める直前の仕事を続ける上で役立ったと思いますか」と尋ねた。ケース数が少ないので、参考にとどめるが、第1位としては、中心的介護者では、「その他」と「特になし」をのぞくと「勤務時間の短縮」「介護休業（休暇）制度」、手伝いでは「デイサービス・デイケア」「勤務時間の短縮」「業務内容の変更」が多く挙げられている（図12-11）。先に見た、仕事を続ける上で役立った条件では、夫や職場など周囲の理解の占める割合が相対的に高かったのに対し、職場の制度に関する項目が多いように見受けられる。周囲の理解という点では、第2位に挙げられた項目として、「職場の理解」がある。職場に

における介護関連の制度は職種や従業上の地位などによる違いもあると考えられるが、介護が現実問題となり、仕事の継続に関わる判断に直面したときに必要と思われるものと、実際に介護と仕事を両立していく上で大きな影響を持つものには差があることが分かる。

図12-11 仕事を続けるためにあればよかった条件（10%以上の項目）



注) 網掛けは中心的介護者と手伝いの両方で10%以上の項目

(2)職場における介護関連制度の利用

職場における介護関連制度の有無と、その利用可否の関連をみるため、本調査においては、現在介護と仕事をしている者に対して、現在の仕事でどのような介護関連制度を利用したか、利用しなかった場合にはなぜ利用しなかったのかを尋ねている。設問は、「介護休業・介護休暇」「勤務時間の短縮」「フレックスタイム」「在宅勤務」の4つの介護関連制度について、それぞれ、利用状況として「利用した」「制度はあったが、使う必要がなかった」「制度はあったが、利用できなかった」「制度がなかった」のいずれかを選択する形式である。その結果を表12-10に示す。

表12-10 現在の仕事で利用した制度

	総数	制度あり			制度なし
		利用した	使う必要が なかった	利用でき なかった	
介護休業・介護休暇					
中心的介護者	105	44.8 %	3.8 %	37.1 %	55.2 %
手伝い	108	48.1 %	4.6 %	30.6 %	51.9 %
勤務時間の短縮					
中心的介護者	108	50.9 %	14.8 %	31.5 %	49.1 %
手伝い	108	49.1 %	8.3 %	27.8 %	50.9 %
フレックスタイム					
中心的介護者	101	39.6 %	5.9 %	29.7 %	60.4 %
手伝い	108	31.5 %	2.8 %	21.3 %	68.5 %
在宅勤務					
中心的介護者	102	33.3 %	3.9 %	28.4 %	66.7 %
手伝い	107	24.3 %	0.9 %	15.9 %	75.7 %

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

まず、制度の有無について見ると、制度がある割合（「利用した」、「使う必要がなかった」、「利用できなかった」の計）は、「介護休業・介護休暇」は中心的介護者で44.8%、手伝いで48.1%、「勤務時間の短縮」はそれぞれ50.9%と49.1%で、中心的介護者と手伝いとの間に大きな差は見られない。「フレックスタイム」は中心的介護者で39.6%、手伝いで31.5%、「在宅勤務」はそれぞれ33.3%と24.2%で、いずれも中心的介護者の方が8～9ポイント高い。制度ありの内訳では、いずれも「使う必要がなかった」が半数以上を占めている。

「利用した」の割合がもっとも高いのは、中心的介護者でも手伝いでも「勤務時間の短縮」で、それぞれ14.8%、8.3%である。中心的介護者では、それに次いで「フレックスタイム」5.9%で、さらに「在宅勤務」3.9%、「介護休業・介護休暇」3.8%である。手伝いでは、「介護休業・介護休暇」4.6%、「フレックスタイム」2.8%、「在宅勤務」0.9%と続く。制度を利用した割合は、「介護休業・介護休暇」では手伝いの方が中心的介護者よりも高いが、それ以外では中心的介護者の方が高い。

他方、「利用できなかった」の割合は、中心的介護者では、「介護休業・介護休暇」「勤務時間の短縮」「フレックスタイム」で4%前後、「在宅勤務」では1%程度で、いずれも「利用した」の割合を超えていない。手伝いの場合には、「介護休業・介護休暇」「勤務時間の短縮」で1割強、「フレックスタイム」「在宅勤務」で約7%となっており、いずれも「利用した」の割合を上回っている。

こうした制度利用の状況には、先に見た、仕事を続けるために必要なものとしての「職場の理解」との関連がうかがえる。また、制度の有無や利用の実現性・実効性（制度利用は同居家族の介護に限る、等）などと、就労継続や介護への関わり方（中心的介護者か手伝いか）の間には、双方向の因果関係も考えられよう。少子化時代の介護は女性だけの問題にとどまるものではなく、介護と就労の関係については、さらなる分析が必要である。

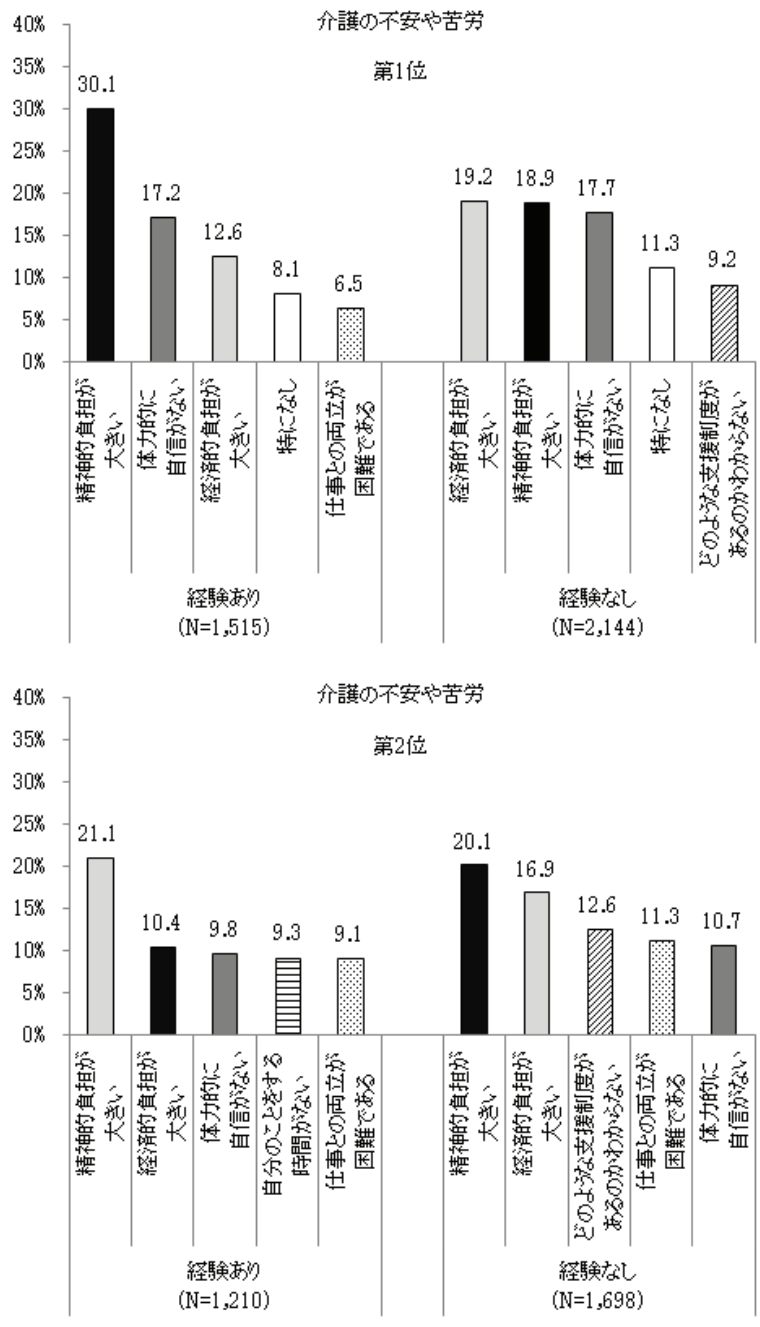
4. 介護に関わる不安や苦勞

本調査では、介護経験の有無等に関わらず、調査対象である妻全員を対象に、介護をする上での不安や苦勞を尋ねている。回答は、「特になし」を含む15の選択肢から、第1位、第2位として一つずつ選ぶ形式である。ここでは、その結果を、介護経験の有無別にみていく（図12-12）。介護経験については、問14で「1.中心となって介護している」「2.中心的な介護者を手伝っている」および「3.以前に介護をしていたが、現在はしていない」と回答した者を「経験あり」、「4.家族の介護をしたことはない」を「経験なし」とした。また、第1位、第2位とも、挙げられた割合の高い5項目についてみることにする。

まず、第1位に挙げられた項目について、「経験あり」では「精神的負担が大きい」が30.1%と最も多く、次いで「体力的に自信がない」17.2%、「経済的負担が大きい」12.6%となった。一方の「経験なし」でも、もっとも多かったのは「精神的負担が大きい」の19.2%で、以下、「経済的負担が大きい」18.9%、「体力的に自信がない」17.7%と続く。上位の3項目は経験の有無で共通しているが、「精神的負担が大きい」の割合は「経験あり」の方が10ポイント近く高く、「経験なし」ではこれら3項目は18%前後のほぼ同じ割合を示している。介護の経験がなくても、その精神的負担の大きさを想像する者は相対的に多いが、それ以上に、実際の介護における精神的な負担の大きさを感ずる者は多いといえよう。さらに4番目以下をみると、「経験あり」では「特になし」が8.1%、「仕事との両立が困難である」が6.5%で、「経験なし」では、「特になし」が11.3%、「どのような支援制度があるのか分からない」が9.2%である。

また、第2位に挙げられた項目をみると、「経験あり」では第1位に挙げられた5項目のうち、「精神的負担が大きい」（21.1%）、「経済的負担が大きい」（10.4%）、「体力的に自信がない」（9.8%）、「仕事との両立が困難である」（9.1%）の4項目が再び多く挙げられ、第1位にあった「特になし」に代わって「自分のことをする時間がない」が9.3%で4番目に大きな割合となった。「経験なし」も同様に、第2位として挙げられた上位5項目の内4項目（「精神的負担が大きい」（20.1%）、経済的負担が大きい（16.9%）、「どのような支援制度があるのか分からない」（12.6%）、「体力的に自信がない」（10.7%））は第1位と共通で、「特になし」に代わって「仕事との両立が困難である」が11.3%を占めている。経験の有無にかかわらず、精神的負担、経済的負担、体力的負担に対する不安や苦勞は大きい。仕事との両立に対する不安や苦勞もみられ、経済的負担に対する不安や苦勞とも合わせて解決すべき課題といえる。また、経験のない者では、どのような支援制度があるのか分からないという者が少なくなく、介護者の高齢化などを鑑みれば、適切な情報提供の仕組み作りも今後ますます重要となろう。

図12-12 介護経験の有無別にみた介護の不安や苦勞（割合の大きい5項目）



<参考資料>

図12-1 妻の年齢別にみた生存している親における介護の要否の割合(第5回調査)

(%)				
親	年齢	ケース数	介護不要	介護必要
妻の父親	年齢計	2,407	80.3	19.7
	29歳以下	179	96.1	3.9
	30～39歳	776	94.7	5.3
	40～49歳	918	81.3	18.7
	50歳以上	534	52.6	47.4
妻の母親	年齢計	3,516	72.0	28.0
	29歳以下	202	93.6	6.4
	30～39歳	866	93.1	6.9
	40～49歳	1,159	84.2	15.8
	50歳以上	1,289	43.4	56.6
夫の父親	年齢計	2,020	83.4	16.6
	29歳以下	180	96.7	3.3
	30～39歳	707	94.3	5.7
	40～49歳	758	83.9	16.1
	50歳以上	375	55.2	44.8
夫の母親	年齢計	3,018	75.2	24.8
	29歳以下	194	96.4	3.6
	30～39歳	823	93.7	6.3
	40～49歳	1,045	84.5	15.5
	50歳以上	956	44.9	55.1

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-2 妻の年齢別にみた介護の必要な親のいる妻の割合 (%)

妻の年齢	ケース数	介護が必要な親 がいる妻の割合	介護が必要な親の人数			
			1人	2人	3人	4人
年齢計	6,409	28.7	19.8	7.1	1.5	0.3
29歳以下	226	12.4	10.6	1.3	0.4	0.0
30～39歳	971	14.8	10.8	3.4	0.2	0.4
40～49歳	1,404	33.8	24.1	7.8	1.4	0.4
50～59歳	1,406	51.7	30.9	16.1	4.1	0.7
60～69歳	1,478	29.3	22.9	5.4	0.9	0.0
70歳以上	924	3.8	3.4	0.3	0.1	0.0

注) ケース数には、介護が必要かどうか分からない親を持つ妻も含む。

図12-3 介護の要・不要別にみた親の居住状態 (%)

親	介護の要・不要	ケース数	居住状態					
			結婚している 子と同居	結婚していな い子と同居	夫婦ふたり 暮らし	ひとり暮らし	入院・入所	その他
妻の父親	介護必要	467	28.9	12.4	33.8	7.7	14.1	3.0
	介護不要	1,908	20.3	20.0	49.4	5.2	0.2	4.8
妻の母親	介護必要	969	35.2	12.9	13.8	20.0	15.6	2.5
	介護不要	2,490	24.9	19.8	38.8	11.6	0.7	4.2
夫の父親	介護必要	334	38.9	6.9	29.9	7.5	15.0	1.8
	介護不要	1,647	27.3	14.0	48.5	5.6	0.2	4.4
夫の母親	介護必要	736	43.5	6.5	12.0	15.8	20.1	2.2
	介護不要	2,227	32.2	14.1	36.6	12.9	0.5	3.6

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-4 妻の年齢別にみた介護経験のある妻の割合 (%)

妻の年齢	ケース数	介護経験あり			
		中心となって介護している	中心的な介護者を手伝っている	以前介護していたが、現在はしていない	
29歳以下	215	4.2	0.5	0.9	2.8
30～39歳	918	10.2	1.4	2.7	6.1
40～49歳	1,309	20.3	3.3	4.4	12.6
50～59歳	1,289	42.2	9.4	7.6	25.2
60～69歳	1,262	53.1	10.4	4.4	38.3
70歳以上	692	45.1	11.6	2.3	31.2

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-5 妻が介護している家族の続柄 (%)

介護経験	ケース数	夫	親	妻の介護経験				祖父母	子ども	その他親族等
				妻の父親	妻の母親	夫の父親	夫の母親			
中心的介護者	386	31.9	69.2	8.5	27.7	7.5	25.4	1.3	7.5	1.6
手伝い	252	4.8	93.3	16.7	32.5	14.3	29.8	7.1	2.0	6.0

注) 複数回答のため割合の合計は100にならない。

図12-6 介護の頻度 (%)

介護経験	ケース数	毎日	週に				年に数回
			3～4回	1～2回	1～2回	1～2回	
中心的介護者	364	78.6	9.9	8.5	2.7	0.3	
手伝い	229	27.9	8.3	32.3	23.1	8.3	

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-7 1日の介護時間 (%)

介護経験	ケース数	1日の介護時間					
		1～4時間	5～8時間	9～12時間	13～16時間	17～20時間	21～24時間
中心的介護者	364	56.3	19.4	10.8	5.6	3.1	4.9
手伝い	229	77.8	16.2	2.7	0.5	0.5	2.2

注) 四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-8 妻の従業上の地位別、介護開始後に仕事を続けた妻の割合

介護経験	従業上の地位	ケース数	仕事を続けた(%)
		201	61.2
中心的介護者	全体	201	61.2
	常勤	62	51.6
	パート	85	56.5
	自営	54	79.6
手伝い	全体	149	74.5
	常勤	55	76.4
	パート	68	69.1
	自営	26	84.6

注) パートには嘱託・派遣社員を、自営には家族従業者を含む。四捨五入の関係で割合の合計が100にならない場合がある。

図12-9 介護開始後に新しい仕事について者の割合

介護経験	介護と仕事	ケース数	新しい仕事について(%)
		134	17.2
中心的介護者	介護開始直前に働いていなかった	134	17.2
	介護開始後に仕事をやめた	62	29.0
手伝い	介護開始直前に働いていなかった	71	25.4
	介護開始後に仕事をやめた	26	50.0

図12-10 仕事を続ける上で役にたった条件(10%以上) (%)

介護経験	順位	ケース数	デイサービス・ デイケア	夫の理解	職場の理解	勤務時間の 短縮
中心的介護者	第1位	111	34.2	16.2	12.6	11.7
介護経験	順位	ケース数	夫の理解	ショート ステイ	介護保険 制度	職場の理解
中心的介護者	第2位	93	20.4	12.9	12.9	11.8
介護経験	順位	ケース数	デイサービス・ デイケア	夫の理解	特になし	職場の理解
手伝い	第1位	97	26.8	14.4	11.3	10.3
介護経験	順位	ケース数	夫の理解	親・親族の 理解	ショート ステイ	
手伝い	第2位	70	20.0	15.7	14.3	

図12-11 仕事を続けるためにあればよかった条件(10%以上) (%)

介護経験	順位	ケース数	勤務時間の 短縮	介護休業(休 暇)制度	特になし	その他	
中心的介護者	第1位	56	23.2	16.1	14.3	12.5	
介護経験	順位	ケース数	デイサービス・ デイケア	在宅介護への 経済的支援	職場の理解		
中心的介護者	第2位	36	16.7	13.9	11.1		
介護経験	順位	ケース数	デイサービス・ デイケア	特になし	勤務時間の 短縮	業務内容の 変更	その他
手伝い	第1位	30	20.0	20.0	13.3	10.0	10.0
介護経験	順位	ケース数	職場の理解	勤務時間の 短縮	訪問介護 (ホームヘル パー)	給食・掃除等 の家事代行 サービス	介護休業(休 暇)制度
手伝い	第2位	20	20.0	15.0	15.0	15.0	10.0

図12-12 介護経験の有無別にみた介護の不安や苦勞(割合の大きい5項目) (%)

介護経験	順位	ケース数	精神的負担が 大きい	体力的に自信 がない	経済的負担が 大きい	特になし	仕事との両立が 困難である
経験あり	第1位	1,515	30.1	17.2	12.6	8.1	6.5
介護経験	順位	ケース数	精神的負担が 大きい	経済的負担が 大きい	体力的に自信 がない	自分のことをす る時間がない	仕事との両立が 困難である
経験あり	第2位	1,210	21.1	10.4	9.8	9.3	9.1
介護経験	順位	ケース数	経済的負担が 大きい	精神的負担が 大きい	体力的に自信 がない	特になし	どのような支援 制度があるのか わからない
経験なし	第1位	2,144	19.2	18.9	17.7	11.3	9.2
介護経験	順位	ケース数	精神的負担が 大きい	経済的負担が 大きい	どのような支援 制度があるのか わからない	仕事との両立が 困難である	体力的に自信 がない
経験なし	第2位	1,698	20.1	16.9	12.6	11.3	10.7